

FUJITSU Software

NetCOBOL V11.0.1

A horizontal band featuring a red abstract graphic with flowing, curved lines and bright light spots, creating a sense of motion and energy.

リリース情報

Windows(64)

B1WD-3190-03Z0(00)
2015年12月

まえがき

本書は、NetCOBOLのリリース情報について説明します。

NetCOBOLシリーズについて

NetCOBOLシリーズの最新情報については、富士通のサイトをご覧ください。

<http://software.fujitsu.com/jp/cobol/>

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vistaは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ActiveXは、米国Microsoft Corporationの商標です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Intel、Itaniumは、Intel Corporationの登録商標です。
- その他の会社名または製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

製品の呼び名について

本書に記載されている製品の名称を、以下のように略して表記します。

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Essentials Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 R2 Foundation	Windows Server 2012 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Essentials Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Foundation	Windows Server 2012
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM)	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition	Windows Server 2003

正式名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003 または Windows Server 2003(x64)
Windows(R) 10 Home Windows(R) 10 Pro Windows(R) 10 Enterprise Windows(R) 10 Education	Windows 10(x64) または Windows 10
Windows(R) 8.1 Windows(R) 8.1 Pro Windows(R) 8.1 Enterprise	Windows 8.1(x64) または Windows 8.1
Windows(R) 8 Windows(R) 8 Pro Windows(R) 8 Enterprise	Windows 8(x64) または Windows 8
Windows(R) 7 Home Premium Windows(R) 7 Professional Windows(R) 7 Enterprise Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7(x64) または Windows 7
Windows Vista(R) Home Basic Windows Vista(R) Home Premium Windows Vista(R) Business Windows Vista(R) Enterprise Windows Vista(R) Ultimate	Windows Vista
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System	Windows XP
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 for Itanium-Based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition for Itanium-based Systems Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Datacenter Edition for Itanium-based Systems	Windows(Itanium)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5(for Intel64) Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 6(for Intel64)	Linux(64)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5(for Intel Itanium)	Linux(Itanium)
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5(for x86)	Linux
Java(TM) Platform, Standard Edition Development Kit	JDK
Java(TM) Platform, Standard Edition Runtime Environment	JRE

・ 次の製品すべてを指す場合は、「Windows(x64)」と表記しています。

－ Windows Server 2012 R2

- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2
- Windows 10(x64)
- Windows 8.1(x64)
- Windows 8(x64)
- Windows 7(x64)
- 次の製品すべてを指す場合は、「Windows(x86)」と表記しています。
 - Windows Server 2012 R2
 - Windows Server 2012
 - Windows Server 2008 R2
 - Windows Server 2008
 - Windows Server 2003
 - Windows 10
 - Windows 8.1
 - Windows 8
 - Windows 7
 - Windows Vista
 - Windows XP
- Windows(x86)向けのNetCOBOL製品を「Windows(x86)版 NetCOBOL」、Windows(x86)版 NetCOBOLに含まれるNetCOBOL Studioを、「Windows(x86)版 NetCOBOL Studio」と表記します。
- Windows(x86)向けのMeFt製品を「Windows(x86)版 MeFt」、Windows(Itanium)向けのMeFt製品を「Windows(Itanium)版 MeFt」と表記します。
- NetCOBOL(32bit)が動作するOracle Solaris 10およびOracle Solaris 11を「Solaris」と表記します。
- NetCOBOL(64bit)が動作するOracle Solaris 11を「Solaris(64)」と表記します。

本書の目的

本書は、旧版からの機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明しています。

旧版を使用していたお客さまが、より円滑に本製品に移行できることを目的としています。

本書の対象読者

旧製品を導入されており、本製品への移行を検討されている方、あるいは移行中の方を対象としています。

本書の位置づけ

本書は、機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明していますが、断片的な情報ですので、全体像、あるいは詳細な情報はそれぞれのプログラムのマニュアルを参照してください。

関連マニュアル

この製品および関連製品のマニュアルには、本書の他に以下のマニュアルがあります。

以下のマニュアルの名前は、製品名(プログラム名)、製品(プログラム)世代とマニュアル名の3つを組み合わせで記載しています。本書の中で下記のマニュアル名を記載する場合、世代が省略されることがあります。また、製品名(プログラム名)が明らかな場合は製品名(プログラム名)も省略されることがあります。

- NetCOBOL V11.0 COBOL文法書

- NetCOBOL V11.0 ユーザーズガイド
- NetCOBOL V11.0 NetCOBOL Studio ユーザーズガイド
- NetCOBOL V11.0 メッセージ集
- NetCOBOL V11.0 入門ガイド
- MeFt V11.0 ユーザーズガイド
- MeFt/Web V11.0 ユーザーズガイド
- FORM V11.0 ユーザーズガイド
- J アダプタクラスジェネレータ V11.0 ユーザーズガイド
- SIMPLIA/COBOL支援キット V11.0 ユーザーズガイド
 - SIMPLIA/TF-LINDA ユーザーズガイド
 - SIMPLIA/TF-MDPORT ユーザーズガイド
 - SIMPLIA/MF-STEP COUNTER ユーザーズガイド
 - SIMPLIA/TF-EXCOUNTER ユーザーズガイド
- PowerSORT Server (64bit) V7.0 ユーザーズガイド

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または第三者へ提供する場合は、お客様が居住する国および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認のうえ、必要な手続きをおとりください。

お願い

- 本書を無断で他に転載しないようお願いします。
- 本書は予告なしに変更されることがあります。

2015年12月

Copyright 2009-2015 FUJITSU LIMITED

目 次

第1章 追加機能の概要	1
1.1 コンポーネント共通	1
1.1.1 コンポーネント共通の追加機能概要	1
1.2 NetCOBOL	1
1.2.1 NetCOBOL V11の追加機能概要	2
1.2.2 NetCOBOL V10の追加機能概要	4
1.3 MeFt	7
1.3.1 MeFt V11の追加機能概要	7
1.3.2 MeFt V10の追加機能概要	8
1.4 SIMPLIA/COBOL 支援キット	8
1.4.1 TF-MDPORT	9
1.4.2 TF-LINDA	9
1.4.3 MF-STEP COUNTER	10
1.4.4 TF-EXCOUNTER	10
1.5 PowerSORT Server	10
1.5.1 PowerSORT Server V7の追加機能概要	10
1.5.2 PowerSORT V6の追加機能概要	11
1.6 Jアダプタクラスジェネレータ	12
1.6.1 Jアダプタクラスジェネレータ V11の追加機能概要	12
1.6.2 Jアダプタクラスジェネレータ V10の追加機能概要	12
1.7 FORM	12
1.7.1 FORM V11の追加機能概要	12
1.7.2 FORM V10の追加機能概要	13
1.8 MeFt/Web	13
1.8.1 MeFt/Web V11の追加機能概要	13
1.8.2 MeFt/Web V10の追加機能概要	13
第2章 互換に関する情報	14
2.1 NetCOBOL 開発環境	14
2.1.1 リンクオプション/SUBSYSTEMの既定値の変更	14
2.1.2 NetCOBOL Studioの正書法の設定について	14
2.1.3 翻訳オプションENCODE指定時の実行時コード系について	14
2.1.4 SQLCODE、SQLMSGおよびSQLERRDの定義場所	15
2.1.5 規定外の外部10進項目同士の加減算の演算結果について	16
2.1.6 障害修正に関する互換情報について	17
2.2 NetCOBOL 運用環境	19
2.2.1 文字コード範囲外のデータおよび不完全な文字のコード変換結果	19
2.2.2 コード変換の代替文字	20
2.2.3 実行時メッセージの重大度コードの変更	20
2.2.4 障害修正に関する互換情報について	20
2.3 MeFt	25
2.3.1 プリント情報ファイルのBOMの扱い	26
2.3.2 移行時の注意事項	26
2.3.3 未サポート機能	28
2.3.4 障害修正に関する互換情報について	29
2.4 SIMPLIA/COBOL 支援キット	31
2.4.1 TF-MDPORT	31
2.4.2 TF-LINDA	31
2.4.3 MF-STEP COUNTER	31
2.4.4 TF-EXCOUNTER	31
2.5 PowerSORT Server	31
2.5.1 テキストファイル浮動フィールド指定のキーフィールドについて	31
2.5.2 先入力先出力 (FIFO) 機能について	32
2.5.3 マージ機能について	32
2.5.4 富士通COBOLファイルシステムの可変長レコード形式について	33

2.5.5 「+0」と「-0」を表現できるデータ形式について.....	33
2.5.6 メッセージの出力形式について.....	34
2.5.7 一時ファイル容量不足時のメッセージについて.....	34
2.5.8 処理定義ファイルについて.....	35
2.5.9 アプリケーションログへのメッセージ出力について.....	35
2.5.10 BSORT関数の定義値変更について.....	35
2.5.11 障害修正に関する互換情報.....	36
2.6 Jアダプタクラスジェネレータ.....	41
2.7 FORM.....	41
2.7.1 項目ディクショナリ連携の非サポートについて.....	41
2.7.2 文字ピッチの初期値について.....	42
2.7.3 マウスカーソル形状について.....	42
2.7.4 オーバレイ文字の配置方法の初期値について.....	42
2.7.5 オーバレイ文字の文字間隔自動調整について.....	42
2.7.6 オーバレイ文字の文字列方向の指定について.....	42
2.7.7 オーバレイ文字の拡大/縮小について.....	42
2.7.8 クライアント環境設定ツールについて.....	43
2.7.9 アクセス関数変更コマンド (INSTSMD.EXE) について.....	43
2.7.10 オーバレイパターンテーブル変換コマンドについて.....	43
2.7.11 障害修正に関する互換情報について.....	43
2.8 MeFt/Web.....	44
2.8.1 IIS 環境設定コマンドについて.....	44
第3章 プログラム修正一覧.....	45
3.1 NetCOBOL開発環境.....	45
3.2 NetCOBOL運用環境.....	53
3.3 MeFt.....	58
3.4 SIMPLIA/COBOL 支援キット.....	60
3.4.1 TF-MDPORT.....	60
3.4.2 TF-LINDA.....	60
3.4.3 MF-STEP COUNTER.....	61
3.4.4 TF-EXCOUNTER.....	61
3.5 PowerSORT Server.....	61
3.6 Jアダプタクラスジェネレータ.....	62
3.7 FORM.....	62
3.8 MeFt/Web.....	63
付録A NetCOBOLシリーズの製品体系.....	64

第1章 追加機能の概要

ここでは、各コンポーネントで追加された機能の概要と内容を説明します。

1.1 コンポーネント共通

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition クライアント運用パッケージ

1.1.1 コンポーネント共通の追加機能概要

表1.1 コンポーネント共通の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V11.0.1	新OSサポート	Windows Server 2012 R2、Windows 8.1 およびWindows 10をサポートしました。	-
2	V10.5.0	富士通共通ツール	富士通ミドルウェアのアンインストールと 管理、FJQSS(資料採取ツール)に対応 しました。	製品パッケージのソフトウェア説明書 ・ インストール/アンインストール方 法 ・ FJQSS(資料採取ツール)の使用 インストールガイド ・ インストール ・ アンインストール ・ メッセージ

V/Lは、NetCOBOLシリーズのバージョン・レベルを示します。なお、NetCOBOLシリーズに含まれる各コンポーネントのバージョン・レベルは“[表A.1 NetCOBOLシリーズのバージョン・レベルとコンポーネントのバージョン・レベル対応表](#)”を参照してください。

1.2 NetCOBOL

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ

- NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition クライアント運用パッケージ

1.2.1 NetCOBOL V11の追加機能概要

表1.2 NetCOBOL V11の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V11.0.1	Windows(64) Interstage Job Workload Server連携機能	Windows(64) Interstage Job Workload Server連携で、以下の機能を使用できるようになりました。 • ファイルの高速処理 • ファイルの追加書き • ファイルの連結 • ダミーファイル • DISPLAY 文・ACCEPT 文によるファイル入出力拡張機能	NetCOBOLユーザーズガイド • 7.7.4 ファイルの高速処理 • 7.7.5 ファイルの追加書き • 7.7.6 ファイルの連結 • 7.7.7 ダミーファイル • 11.1.6.4 DISPLAY文のファイル出力拡張機能 • 11.1.6.5 ACCEPT文のファイル入力拡張機能
2	V11.0.1	NetCOBOL Studio	NetCOBOL StudioのEclipse基盤が4.3(*)になりました。これにより、ビューのレイアウトを自由に配置することができ、マルチディスプレイ環境においての操作性を向上させることができます。また、最新の各種プラグインを組み合わせることで多様な機能を利用することができるようになりました。 *:カスタムインストールによって、Eclipse 3.4基盤のNetCOBOL Studioを代わりにインストールすることもできます。ただし、Eclipse 3.4基盤のNetCOBOL StudioはWindows 10での動作をサポートしていません。Windows 10上で使用する場合は、デフォルトでインストールされるEclipse 4.3基盤のNetCOBOL Studioをお使いください。	NetCOBOL Studio ユーザーズガイド • 第11章 Eclipse 4.3基盤の利用
3	V11.0.1	自由形式サポート	[NetCOBOL Studio (Eclipse 4.3 基盤)のみ対応] NetCOBOL Studioエディタで自由形式のCOBOLソースファイルを編集できるようになりました。	NetCOBOL Studio ユーザーズガイド • 5.10 正書法 • A.1.47 SRF翻訳オプション
4	V11.0.1	リモート開発におけるセキュリティ強化	[NetCOBOL Studio (Eclipse 4.3 基盤)のみ対応] SSHポートフォワーディングにより、Linux(64)をターゲットにするリモート開発時のセキュリティが強化されました。	NetCOBOL Studio ユーザーズガイド • 9.2.1.1 NetCOBOLリモート開発サービス
5	V11.0.0	Unicode(UTF-32)サポート	UTF-32エンコードをサポートしました。これにより、Unicodeの場合でも日本語文字を固定長で扱うことができるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド • 第6章 文字コード • 7.1.4 Unicodeデータの扱い • 8.1.14 Unicodeの印刷について • 11.1.3 Unicodeデータの扱い

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
				• A.3.13 ENCODE(データ項目のエンコードの指定) • A.3.36 RCS(実行時コード系の指定) • C.2.6 @CBR_CODE_SET(ファイルのコード系の指定) • C.2.12 @CBR_CONVERT_CHARACTER(コード変換ライブラリの指定) • 付録L 文字コードの留意点 COBOL文法書 • 4.2.2.3 REPLACING CHARACTER句 • 4.2.3.4 ALPHABET句 • 5.2.5 ENCODING句(順ファイル・相対ファイル・索引ファイル・表示ファイル) • 5.4.4 ENCODING句 • 6.4.28 MOVE文(中核)(書き方3)
6	V11.0.0	31桁サポート	数字項目の桁数を31桁まで拡張して使用できるようになりました。	NetCOBOLユーザーズガイド • A.3.2 ARITHMETIC(演算モードの指定) COBOL文法書 • 1.2.3.1 数字定数/固定小数点定数 • 1.7 演算モード • 5.4.9 PICTURE句 • 5.4.17 USAGE句 • 8.2.2 ホスト変数定義 • D.2 四則演算の中間結果
7	V11.0.0	RECURSIVE指定および局所場所節のサポート	プログラムに再帰属性を付加できるようになりました。また、局所場所節 (LOCAL-STORAGE SECTION)を定義できるようになりました。	COBOL文法書 • 2.3.8 プログラムの再帰属性 • 5.1 データ部の構成/局所場所節 (LOCAL-STORAGE SECTION)
8	V11.0.0	COBOLリソースプロジェクト機能サポート	NetCOBOL Studioで「COBOLリソースプロジェクト」を作成できるようになりました。 これにより、プロジェクトをリソース保管庫として利用することができるようになり、効率的な管理が行えるようになりました。	NetCOBOL Studio ユーザーズガイド • 4.1.3 COBOLリソースプロジェクトとは • 4.2.3 COBOLリソースプロジェクト生成ウィザード • 4.5 COBOLリソースプロジェクト
9	V11.0.0	COBOLソリューション機能サポート	NetCOBOL Studioで「COBOLソリューションプロジェクト」を作成できるようになりました。 これにより、複数のプロジェクトをCOBOLソリューションプロジェクトでまとめて管理することができるようになり、	NetCOBOL Studio ユーザーズガイド • 4.1.1 COBOLソリューションとは • 4.2.1 COBOLソリューション生成ウィザード • 4.3 COBOLソリューションプロジェクト

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
			プロジェクトに対する共通設定や一括操作が可能になりました。	
10	V11.0.0	リモート開発におけるSolaris(64)サポート	リモート開発が可能なサーバとしてSolaris(64)が追加されました。	NetCOBOL Studio ユーザーズガイド 9.1.1 リモート開発とは
11	V11.0.0	電子帳票出力機能	Interstage List Worksと連携して、電子帳票出力ができるようになりました。	NetCOBOL ユーザーズガイド 8.4.1.2 帳票の電子化 8.6 電子帳票出力機能を使う方法
12	V11.0.0	表示ファイル画面機能	表示ファイル(DSP)でMeFt画面を利用できるようになりました。	NetCOBOL ユーザーズガイド 9.2 表示ファイル(画面入出力)の使い方
13	V11.0.0	FETCH FIRST/ LAST文サポート	データベースアクセスでFETCH文に"FIRST"と"LAST"を指定できるようになりました。	COBOL 文法書 8.6.4 FETCH文 NetCOBOL ユーザーズガイド 15.2.4.5 スクロール可能なカーソルを使用したデータの取得
14	V11.0.0	プロジェクト構成変換コマンド	プロジェクトマネージャ(Windows(x86)版 NetCOBOLで提供)用プロジェクトからNetCOBOL Studio用プロジェクトへの移行を支援するプロジェクト構成変換コマンドを提供します。 これにより、プロジェクトマネージャのプロジェクトが管理していたCOBOL資産を、NetCOBOL Studioでも保守できるようになりました。	NetCOBOL Studio ユーザーズガイド 付録E プロジェクトマネージャからの移行

1.2.2 NetCOBOL V10の追加機能概要

表1.3 NetCOBOL V10の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所(注)
1	V10.5.0	新OSサポート	Windows 8およびWindows Server 2012をサポートしました。	-
2	V10.5.0	Interstage 連携強化	小入出力および実行時メッセージの出力先として、Interstage Business Application Serverの汎用ログを指定できるようになりました。	NetCOBOL使用手引書 9.1.8 Interstage Business Application Serverの汎用ログを使うプログラム 5.4.1 環境変数情報
3	V10.5.0	Migration CJC for INTARFRM 連携機能強化	マルチウインドウ(複数画面)を表示できるようになりました。	Migration CJC for INTARFRM 連携機能運用ガイド
4	V10.5.0	ファイル処理	ファイルアクセスルーチンで、ファイルの高速処理機能をサポートしました。	COBOLファイルアクセスルーチン使用手引書 3.16.2 ファイルの高速処理
5	V10.3.0	Migration CJC for INTARFRM 連携機能強化	既存のCOBOL資産から高い互換性を維持したまま、Javaと連携したインターネット対応システムを構築することができるようになりました。	Migration CJC for INTARFRM 連携機能運用ガイド

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所(注)
6	V10.3.0	ファイルサイズの拡張	順・索引ファイルのサイズ制限(順ファイルは1GB、索引ファイルは1.7GB)を解除し、システムの制限まで作成できるようになりました。	NetCOBOL使用手引書 6.9 他のファイルシステムの使用方法 5.4.1.22 @CBR_FILE_LFS_ACCESS(COBOLファイルのサイズを拡張する指定)
7	V10.3.0	MeFt/Web	表示ファイル機能で、MeFt/Webと連携できるようになりました。	NetCOBOL使用手引書 第23章画面を使った入出力 MeFt/Web説明書
8	V10.3.0	NetCOBOL Studio (Eclipse 3.4基盤)	NetCOBOL Studio (Eclipse 3.2 基盤)に加え、NetCOBOL Studio (Eclipse 3.4基盤)を提供します(*)。 NetCOBOL Studio (Eclipse 3.4基盤)を使用すると、他のEclipse 3.4基盤製品 (Interstage Studioなど)と操作性などを合わせることができます。 *:NetCOBOL 開発パッケージV10.3以降では、NetCOBOL Studio(Eclipse 3.2 基盤)とNetCOBOL Studio(Eclipse 3.4 基盤)を同梱しています。お客様の環境に応じてどちらかをインストールして使用してください。留意事項は、“NetCOBOL ソフトウェア説明書”の“7.6 開発環境”を参照してください。	NetCOBOL Studio 使用手引書
9	V10.2.0	FETCH NEXT/PRIOR文サポート	データベースアクセスでFETCH文に"NEXT"と"PRIOR"を指定できるようになりました。	COBOL文法書 8.6.4 FETCH文 NetCOBOL 使用手引書 18.2.4.5 FETCH PRIOR文によるデータの取得
10	V10.2.0	IBM DB2互換	SQLCAに含まれるSQLSTATE、SQLCODEおよびSQLERRDを翻訳できるようになりました。	COBOL文法書 8.2.4 SQLSTATE/SQLCODE 8.2.6 SQLERRD
11	V10.2.0	ファイルの高速処理の一括指定サポート	レコード順・行順ファイルに有効となるファイルの高速処理(BSAM)機能を一括して指定できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 6.7.4 ファイルの高速処理
12	V10.2.0	DISPLAY文のイベントログ出力サポート	DISPLAY文の出力先として、イベントログを指定できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 9.1 小入出力機能 5.4.1.10 CBR_DISPLAY_CONSOLE_OUTPUT(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力指定) 5.4.1.13 CBR_DISPLAY_SYSERR_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力指定) 5.4.1.16 CBR_DISPLAY_SYSOUT_OUTPUT(D

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所(注)
				ISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力指定) • 5.4.1.8 CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力時のイベント種類指定) • 5.4.1.11 CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイベント種類指定) • 5.4.1.14 CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベント種類指定) • 5.4.1.9 @CBR_DISPLAY_CONSOLE_EVENTLOG_SRCNAME(DISPLAY UPON CONSOLEのイベントログ出力時のイベントソース名指定) • 5.4.1.12 @CBR_DISPLAY_SYSERR_EVENTLOG_SRCNAME(DISPLAY UPON SYSERRのイベントログ出力時のイベントソース名指定) • 5.4.1.15 @CBR_DISPLAY_SYSOUT_EVENTLOG_SRCNAME(DISPLAY UPON SYSOUTのイベントログ出力時のイベントソース名指定)
13	V10.2.0	CHECK機能抑止の実行時オプションサポート	CHECK機能を抑止する下記の実行時オプションをサポートしました。 • nocb :CHECK(BOUND) • noci :CHECK(ICONF) • nocl :CHECK(LINKAGE) • nocn :CHECK(NUMERIC) • nocp :CHECK(PRM)	NetCOBOL 使用手引書 • 5.7 実行時オプションの指定形式
14	V10.2.0	TRACE機能抑止の実行時オプションサポート	TRACE機能を抑止する実行時オプション"nor"をサポートしました。	NetCOBOL 使用手引書 • 5.7 実行時オプションの指定形式
15	V10.2.0	トレース情報ファイルのマルチプロセスサポート	トレース情報ファイルをプロセス毎に出力できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 • 17.3.2 トレース情報
16	V10.2.0	診断機能によるアプリケーションエラーメッセージ出力サポート	アプリケーションエラーの発生によって診断機能が起動した場合、JMW0099I-Uのメッセージを出力できるようになりました。これにより、アプリケーションエラー	メッセージ説明書 • 4章 診断機能のメッセージ

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所(注)
			の発生を容易に認知できるようになりました。	
17	V10.2.0	DISPLAY文の機能名SYSERR抑止サポート	DISPLAY文の機能名SYSERRに対応付けた呼び名に対して、出力を抑止できるようになりました。	NetCOBOL 使用手引書 ・ 5.4.1.54 @NoMessage(実行時メッセージおよびSYSERRの出力抑止指定)
18	V10.2.0	NetCOBOL Studio	オープンソースのGUI開発環境であるEclipseをベースとしたCOBOLプログラム開発環境を提供します。 GUIによる64ビットCOBOLアプリケーションのローカル開発ができるようになりました。	NetCOBOL Studio使用手引書
19	V10.2.0	リモート開発	NetCOBOL Studioを使用して、Solaris、Linux(Itanium)、Linux(64)、Windows(Itanium)およびWindowsサーバで動作するCOBOLアプリケーションをリモート開発できるようになりました。	NetCOBOL Studio使用手引書 ・ 9章 リモート開発機能
20	V10.2.0	登録集デバッグ	NetCOBOL Studioで、登録集に対するデバッグ機能をサポートしました。	NetCOBOL Studio使用手引書 ・ 7章 デバッグ機能
21	V10.2.0	スクリーン操作機能	スクリーン操作機能をサポートしました。	COBOL 文法書 ・ 2.8 スクリーン操作機能 NetCOBOL使用手引書 ・ 23章 画面を使った入出力

注:「マニュアルの記載場所」は、当該V/L製品で提供されるマニュアルの記載場所です。

1.3 MeFt

MeFtは、以下の製品に含まれています。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- ・ NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- ・ NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- ・ NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ

1.3.1 MeFt V11の追加機能概要

表1.4 MeFt V11の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V11.0.0 (V11.0.0)	Unicode(UTF-32)サポート	COBOLアプリケーション利用時、エンコードUTF-32形式のデータを扱えるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
2	V11.0.0 (V11.0.0)	プリンタ情報ファイルコード系	利用者プログラムの文字コードがUnicodeのCOBOLアプリケーション利用時、BOM(UTF-8)が付加されているプリンタ情報ファイルを使用できるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
3	V11.0.0 (V11.0.0)	31桁サポート	COBOLアプリケーション利用時、数字項目で31桁のデータを扱えるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
4	V11.0.0 (V11.0.0)	電子帳票出力機能	帳票の電子化が行えるようになりました。 ・ Interstage List Works連携による電子帳票出力 ・ Interstage List Creator連携によるPDF出力	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
5	V11.0.0 (V11.0.0)	表示ファイル画面機能	表示ファイル(DSP)でMeFt画面を利用できるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
6	V11.0.0 (V11.0.0)	印刷機能強化	プリンタ印刷時、出力プリンタを省略した場合や指定した出力プリンタのオープンに失敗した場合の動作を指定できるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
7	V11.0.0 (V11.0.0)	印刷機能強化	プリンタ印刷時、印刷指定した用紙がプリンタ装置に存在しなかった場合の動作を指定できるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
8	V11.0.0 (V11.0.0)	印刷機能強化	プリンタ印刷時、印刷指定した給紙口がプリンタに存在しなかった場合の動作を指定できるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
9	V11.0.0 (V11.0.0)	印刷機能強化	文字出力時の抹消線の出力位置をカスタマイズできるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
10	V11.0.0 (V11.0.0)	印刷機能強化	拡大縮小印刷(拡大/縮小印刷、コンパクト印刷、LP縮小拡張印刷)、および印刷プレビュー時の処理時間を短縮できるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
11	V11.0.0 (V11.0.0)	印刷機能強化	バーコード項目のレコードデータの内容により、バーコードの出力を抑止できるようになりました。	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能
12	V11.0.0 (V11.0.0)	印刷機能強化 (互換情報)	障害修正により動作が変わる機能を、プリンタ情報ファイルのキーワードで修正前の動作に戻せるようになりました。 指定できるキーワードは、以下のとおりです。 ・ WRAPCONTROL (ワードラップ補正制御指定) ・ FRAMEPGSKIP (フリーフレーム改ページ指定)	MeFtユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能

注: () 内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.3.2 MeFt V10の追加機能概要

表1.5 MeFt V10の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.1.0B (V10.5.0)	新OSサポート	Windows 8 および Windows Server 2012 上で動作が可能になりました。	—

注: () 内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

SIMPLIA/COBOL支援キットは、以下の製品に含まれています。

1.4.1 TF-MDPORT

表1.6 TF-MDPORTの追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V80L20 (V11.0.0)	変換仕様追加	Unicode間(UCS-2)の変換をサポートしました。	SIMPLIA/TF-MDPORT ユーザーズガイド ・ 変換仕様 文字コードの 変換
2	V80L10 (V10.5.0)	全般	Windows 8およびWindows Server 2012での動作をサポートしました。	—
3	V80L10 (V10.3.0)	全般	Windows 7での動作をサポートしました。	—
4	V80L10 (V10.3.0)	全般	GUIを使用した「ファイル形式変換と文字コード変換」に対応しました。環境設定もGUI上で行うことが可能になりました。	SIMPLIA/TF-MDPORT ユーザーズガイド ・ 使用方法 MDPORT変 換指示
5	V80L10 (V10.3.0)	変換機能強化	Unicodeデータを、コード体系に依存した形で扱うことが可能になりました。	SIMPLIA/TF-MDPORT ユーザーズガイド ・ 画面説明 - MDPORT 変換指示 - 環境設定
6	V80L10 (V10.3.0)	変換機能強化	ASCII系タブコードとEBCDIC系タブコードの変換が可能になりました。	—
7	V80L10 (V10.3.0)	変換機能強化	CSV出力で符号あり数値文字列項目に＋符号の出力選択が可能になりました。	SIMPLIA/TF-MDPORT ユーザーズガイド ・ MDPORT変換指示ウィ ザード [CSV詳細設定] ダイアログボックス ・ MDPORTCコマンド
8	V80L10 (V10.3.0)	COBOLファイル 対応	COBOLファイル形式の変換に対応しました。	SIMPLIA/TF-MDPORT ユーザーズガイド ・ MDPORT変換指示ウィ ザード 3・4/5 (入出力 ファイル情報)
9	V80L10 (V10.3.0)	Interstage Charset Manager 対応	Interstage Charset Managerを使用したコード変換に対応しました。	SIMPLIA/TF-MDPORT ユーザーズガイド ・ MDPORT変換指示ウィ ザード 5/5 (変換仕様・ エラー情報)

注: () 内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.4.2 TF-LINDA

表1.7 TF-LINDAの追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V70L10 (V10.5.0)	全般	Windows 8およびWindows Server 2012での動作をサポートしました。	—

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
2	V70L10 (V10.3.0)	全般	Windows 7での動作をサポートしました。	—
3	V70L10 (V10.3.0)	サポートファイル 形式	行順／索引／相対編成ファイルをサポートしました。	—
4	V70L10 (V10.3.0)	MDPORT連携	MDPORT連携をサポートしました。	—
5	V70L10 (V10.3.0)	ホストデータ変換	ホストデータ変換ツールが利用出来るようになりました。	—
6	V70L10 (V10.3.0)	レコード形式画面 ／一覧形式画面	Unicode 文字によるデータの入力をサポートしました。	—
7	V70L10 (V10.3.0)	レコード形式画面 ／一覧形式画面	JEF 拡張漢字、JEF 拡張非漢字、利用者定義文字の表示と入力をサポートしました。	—
8	V70L10 (V10.3.0)	Unicode 編集ダイアログボックス レコード形式画面 ／一覧形式画面	印刷時のユーザ指定フォントの保存をサポートしました。	—
9	V70L10 (V10.3.0)	データ変換処理	利用者定義変換テーブルを用いたデータの変換処理をサポートしました。	SIMPLIA/TF-LINDAユーザーズガイド ・ 使用方法 利用者定義変換テーブル

注: () 内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.4.3 MF-STEP COUNTER

SIMPLIA/MF-STEP COUNTERは、NetCOBOLシリーズ V11.0.0 から提供します。

1.4.4 TF-EXCOUNTER

SIMPLIA/TF-EXCOUNTERは、NetCOBOLシリーズ V11.0.0 から提供します。

1.5 PowerSORT Server

PowerSORT Serverは、以下の製品に含まれています。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

1.5.1 PowerSORT Server V7の追加機能概要

表1.8 PowerSORT Server V7の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V7.0.0 (V11.0.0)	データ形式	文字コードとして、Unicode(UTF-32)をサポートしました。	PowerSORT Serverユーザーズガイド ・ 1.4 環境変数 ・ 1.6.3 データ形式 ・ 1.6.4 各フィールドで指定可能なデータ形式 ・ 3.2.17 入力コード系オプション(-q)

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
				3.2.27 インデックス指定オプション(-X) 4.2.7.3 icodeオペランド 4.2.8.10 idxkeyオペランド 6.5.1 BSRTPRIM構造体 6.5.10 BSIDXKEY構造体
2	V7.0.0 (V11.0.0)	レコード集約機能	バイナリファイルで指定できる各種データ形式の長さを拡張しました。	PowerSORT Serverユーザーズガイド 1.6.4.2 集約フィールドに指定可能なデータ形式
3	V7.0.0 (V11.0.0)	レコード選択機能	自己規定値で指定できる各種データ形式の長さを拡張しました。	PowerSORT Serverユーザーズガイド 1.6.4.3 選択フィールドに指定可能なデータ形式
4	V7.0.0 (V11.0.0)	レコード再編成機能	自己規定値で指定できる各種データ形式の長さを拡張しました。	PowerSORT Serverユーザーズガイド 1.6.4.4 再編成フィールドの自己規定値に指定可能なデータ形式

注: () 内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.5.2 PowerSORT V6の追加機能概要

表1.9 PowerSORT V6の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V6.1.0 (V10.5.0)	新OSサポート	Windows Server 2012をサポートしました。	—
2	V6.0.0 (V10.1.0)	ファイル	浮動フィールド指定にテキストファイルCSV形式、およびテキストファイルTSV形式を追加しました。	PowerSORT ユーザーズガイド 1.6.2 フィールドの指定方法 3.2.21 テキストファイルオプション(-T) 4.2.9.1 recformオペランド 6.5.1 BSRTPRIM構造体
3	V6.0.0 (V10.1.0)	先入力先出力(FIFO)機能	先入力先出力(FIFO)機能を環境変数により一括して指定できるようになりました。	PowerSORT ユーザーズガイド 1.4 環境変数
4	V6.0.0 (V10.1.0)	ソート機能 マージ機能 レコード選択機能	+0と-0を表現できるデータ形式において、+0と-0を同値と判断して処理できるようになりました。	PowerSORT ユーザーズガイド 1.4 環境変数
5	V6.0.0 (V10.1.0)	メッセージ	PowerSORTのメッセージに、メッセージ種別、日時、およびメッセージ番号を付加して出力できるようになりました。	PowerSORT ユーザーズガイド 1.4 環境変数 7.1 メッセージ
6	V6.0.0 (V10.1.0)	処理定義ファイル	処理定義ファイルによる実行時、メッセージを出力できるようになりました。	PowerSORT ユーザーズガイド 1.4 環境変数

注: () 内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.6 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

1.6.1 Jアダプタクラスジェネレータ V11の追加機能概要

表1.10 Jアダプタクラスジェネレータ V11の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V11.0.0 (V11.0.0)	ファイルパス文字列のUnicode対応	コマンドライン引数およびオプションファイルに指定するファイルパス文字列にUnicode文字を使用できるようになりました。	—

注:()内のバージョンは、NetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.6.2 Jアダプタクラスジェネレータ V10の追加機能概要

表1.11 Jアダプタクラスジェネレータ V10の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.3.0 (V10.5.0)	新OSサポート	Windows 8およびWindows Server 2012をサポートしました。	—
2	V10.0.0 (V10.2.0)	Jアダプタクラス生成および運用環境	Javaクラスを呼び出すCOBOLクラス(Jアダプタクラス)を生成するツールおよびJアダプタクラスの実行環境を提供します。	Jアダプタクラスジェネレータ ユーザーズガイド

注:()内のバージョンは、NetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.7 FORM

FORMは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ

1.7.1 FORM V11の追加機能概要

表1.12 FORM V11の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V11.0.0 (V11.0.0)	31桁サポート	数字項目の桁数を31桁まで拡張して使用できるようになりました。	—
2	V11.0.0 (V11.0.0)	UTF-32用定義体変換コマンド	FORMまたはPowerFORMを使用して作成した帳票定義体(.smd/.pmd)をUTF-32で扱う帳票定義体に変換するコマンドを提供します。 これにより、UTF-32エンコードを使用するCOBOLアプリケーションで帳票定義体を利用できるようになりました。	NetCOBOL ユーザーズガイド • J.6 UTF-32用定義体変換コマンド

注:()内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.7.2 FORM V10の追加機能概要

表1.13 FORM V10の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.0.0C (V10.5.0)	新OSサポート	Windows 8とWindows Server 2012での動作をサポートしました。	—
2	V10.0.0 (-)	新OSサポート	以下のオペレーティングシステムでの動作をサポートしました。 • Windows 7 • Windows Server 2003(x64) • Windows Server 2008 • Windows Server 2008 R2	—

注:()内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。“-”の場合、NetCOBOLシリーズ製品には含まれない、単品製品であることを示します。

1.8 MeFt/Web

NetCOBOL V10.3.0 から、MeFt/Webを提供します。

MeFt/Webは、以下の製品に含まれています。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

1.8.1 MeFt/Web V11の追加機能概要

表1.14 MeFt/Web V11の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V11.0.0 (V11.0.0)	Unicode(UTF-32)サポート	エンコードUTF32形式のデータを扱えるようになりました。	MeFt/Web ユーザーズガイド

注:()内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

1.8.2 MeFt/Web V10の追加機能概要

表1.15 MeFt/Web V10の追加機能概要

項番	V/L(注)	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.5.0 (V10.5.0)	新OSサポート	Windows Server 2012をサポートしました。また、MeFt/WebクライアントにおいてWindows 8をサポートしました。	—

注:()内のバージョンはNetCOBOLシリーズでのバージョンレベルを示します。

第2章 互換に関する情報

ここでは、以前のバージョン・レベルから変更された互換に関する情報を記載します。

2.1 NetCOBOL開発環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ

2.1.1 リンクオプション/SUBSYSTEMの既定値の変更

変更内容

LINKコマンドの/SUBSYSTEMの既定値が変更されました。

影響

COBOLのコンソールウィンドウおよびスクリーン機能を使用した場合、出力した文字列がウィンドウ内に正しく収まらない場合があります。

対処方法

COBOLのコンソールウィンドウおよびスクリーン機能を使用する場合、主プログラムをリンクする時に、LINKコマンドに以下を指定してください。

※主プログラムを翻訳するとき、翻訳オプションMAIN(WINMAIN)を指定した場合はWinMain型、また、翻訳オプションMAIN(MAIN)を指定した場合はmain型を示します。

[WinMain型]

/SUBSYSTEM:WINDOWS,5.02

[main型]

/SUBSYSTEM:CONSOLE,5.02

※スクリーン機能の場合、環境変数情報@ScrnSizeによって論理画面の大きさを変更することで、正しく表示することができます。

2.1.2 NetCOBOL Studioの正書法の設定について

変更内容

NetCOBOL Studio (Eclipse 4.3 基盤) において、エディタの正書法およびタブ幅の設定がプロジェクトの翻訳オプションSRFおよびTABにそれぞれ自動反映されないように変更しました。

対処方法

エディタの正書法の設定ウィンドウを開いて、[翻訳オプションSRFおよびTABの設定に反映させる]チェックボックスをチェックすることで、NetCOBOL Studio (Eclipse 3.4 基盤) の動作に戻すことができます。

2.1.3 翻訳オプションENCODE指定時の実行時コード系について

変更内容

データ項目のエンコードを指定する翻訳オプションENCODEを追加しました。

翻訳オプションENCODEの指定により、実行時コード系が変わる場合があります。

翻訳オプションRCSを明に指定した場合

- ー 実行時コード系は翻訳オプションRCSで指定したコード系となります。

翻訳オプションRCSを明に指定していない場合

- ー 翻訳オプションENCODEを明に指定した場合、実行時コード系はUnicodeとなります。
- ー 翻訳オプションENCODEを明に指定していない場合、実行時コード系はシフトJISとなります。

影響

条件

1. V10.5.0以前のコンパイラで、翻訳オプションRCS(SJIS)を明または暗に指定して作成したプログラム資産である。かつ、
2. 1.のプログラム資産を、V11.0.0以降のコンパイラで、翻訳オプションRCS(SJIS)を明に指定せずに、翻訳オプションENCODE(SJIS[,SJIS])を明に指定して再翻訳した場合。

上記の条件に該当する場合、以下の影響があります。

- ・ 以下の場合に実行時エラー(JMP0081I-U)となります。
 - ー 再翻訳していないプログラムから再翻訳したプログラムを呼び出したとき
 - ー 再翻訳したプログラムから再翻訳していないプログラムを呼び出したとき
- ・ 主プログラムを再翻訳した場合、実行時の資源がUnicodeになります。
詳細は“NetCOBOL ユーザーズガイド”の“6.2.5 資源”を参照してください。

対処方法

翻訳オプションENCODEを明に指定せずに目的プログラムを作成してください。
なお、リポジトリについては、参照側と被参照側の翻訳オプションRCSおよび翻訳オプションENCODEの指定を同じにしてください。

2.1.4 SQLCODE、SQLMSGおよびSQLERRDの定義場所

変更内容

SQL文の実行時情報を格納するSQLCODE、SQLMSG、およびSQLERRDの定義場所の扱いが変更になりました。

V10.1.0

SQL宣言節外で定義されたSQLCODE、SQLERRD、またはSQLMSGには、SQL文の実行時情報を格納しません。

V10.2.0以降

SQL宣言節外で定義されたSQLCODE、SQLERRD、またはSQLMSGに、SQL文の実行時情報を格納します。

影響

以下の条件の場合、V10.1.0以前ではSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGにSQL文の実行時情報は格納されませんでしたが、V10.2.0以降ではSQL文の実行時情報が格納されるようになりました。

そのため、上記3つのデータをSQL文の実行時情報を得る目的以外で使用していた場合は、実行結果が異なる場合があります。

ただし、本影響があるのはV10.2.0以降で再翻訳した場合に限ります。

1. SQL宣言節内にSQLSTATEが構文規則どおりに定義されている。かつ、
2. SQL宣言節外にSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGが構文規則どおりに定義されている。かつ、
3. SQL文が実行される。かつ、
4. 手続き部でSQLCODE、SQLERRDまたはSQLMSGが参照される。かつ、
5. 1.～4.が同一翻訳単位内に記述されている。

対処方法

SQL宣言節外に定義されたSQLCODE、SQLMSG、またはSQLERRDの名前を変更してください。

2.1.5 規定外の外部10進項目同士の加減算の演算結果について

変更内容

以下の条件を満たす算術文がある場合、V10.1.0とV10.2.0以降で演算結果が異なります。

1. 加算または減算の二項演算の算術文である。かつ、
2. 結果の一意名のは、1つのみである。かつ、
3. [NOT] ON SIZE ERRORの指定がない。かつ、
4. ROUNDED指定がない。かつ、
5. 2つの作用対象のいずれもが、全桁数が16桁から18桁の外部10進項目である。かつ、
6. 二項演算の中間結果(注)の精度が17桁から19桁である。かつ、
7. 2つの作用対象のいずれかの内部表現が外部10進項目として誤っている。

注：中間結果の精度については、“COBOL文法書”の“D.2 四則演算の中間結果”を参照してください。



例

```
WORKING-STORAGE SECTION.  
01 DATA-ZONE1    PIC S9(18).  
01 DATA-ZONE2    PIC S9(18).  
01 DATA-2 REDEFINES DATA-ZONE2 PIC X(18).  
01 DATA-ZONE3    PIC S9(18).  
01 DATA-3 REDEFINES DATA-ZONE3 PIC X(18).  
  
PROCEDURE DIVISION.  
    MOVE X"FFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFF" TO DATA-2 DATA-3 . . . ア  
    COMPUTE DATA-ZONE1 = DATA-ZONE2 + DATA-ZONE3  
    DISPLAY DATA-ZONE1
```

上記のプログラムでは、外部10進項目に英数字項目の記憶領域を割り当てます。'ア'の転記を実行すると、DATA-ZONE2とDATA-ZONE3には外部10進項目として誤った内部表現(0xFFFF...FFFF)が設定されます。

- ・ V10.1.0の結果

+33333333333333330

- ・ V10.2.0以降の結果

+54555555545555554

対処方法

外部10進項目として誤った内部表現が設定されている作用対象を含む算術文の結果は規定されていません。誤った内部表現を設定している箇所を修正してください。

外部10進項目の正しい内部表現の概要は次の通りです。

データ項目	ゾーン部	数字部	符号部
外部10進(SEPARATEあり)	3	0～9	2B,2D
外部10進(SEPARATEなし)	3		4,5



参照

“COBOL文法書”の“5.4.17 USAGE句”

“NetCOBOL 入門ガイド”の“5.8 数字項目の標準規則”

2.1.6 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL開発環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で実施された障害修正により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.1 NetCOBOL開発環境の障害修正に関する互換情報

項番	VL(注)	P番号	変更内容																		
1	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG76651	以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時に、長さの異なる日本語項目（日本語編集項目、組込み関数を含む）同士の大小比較の結果が正しくない問題を修正しました。 1. 翻訳オプションRSC(UCS2,LE)またはRSC(UTF16,LE)を指定している。かつ、 2. 日本語項目と、日本語項目または日本語文字定数の大小比較である。かつ、 3. 少なくとも一方が部分参照された項目またはANY LENGTH句の指定がある項目である。かつ、 4. 比較対象の長さが異なる場合。																		
2	V10.1.0	PG77383	以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。 1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。（*1）かつ、 2. 内部10進項目を数字編集項目へ設定している文を記述している。かつ、 3. 内部10進項目と数字編集項目のけた数は、「整数部のけた数が同じ、かつ、小数部がない」である。かつ、 4. 数字編集項目は、編集方法にゼロ抑制のみを指定している（PICTUREの文字列には'9','Z','*'のみを使用している）。かつ、 5. 2.の文の前に、データ項目（または中間結果）を2.の内部10進項目へ設定する文（*2）を記述している。かつ、 6. 5.のデータ項目（または中間結果）のけた数と2.の内部10進項目のけた数 の関係が次のようになっている。かつ、 <table><tr><th>データ項目（または中間結果）</th><th>内部10進項目</th></tr><tr><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>10</td><td>11</td></tr><tr><td>12</td><td>13</td></tr><tr><td>14</td><td>15</td></tr><tr><td>16</td><td>17</td></tr></table> 7. 5.のデータ項目（または中間結果）と2.の内部10進項目の両方に小数部がない。 *1:デフォルトの翻訳オプションはNOOPTIMIZEです。 *2:数字転記はMOVE文だけでなく、COMPUTE文などの暗黙に転記が発生する場合も該当します。	データ項目（または中間結果）	内部10進項目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
データ項目（または中間結果）	内部10進項目																				
2	3																				
4	5																				
6	7																				
8	9																				
10	11																				
12	13																				
14	15																				
16	17																				
3	V10.1.0	PG78440	以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。																		

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)またはBINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ、 2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ、 [A] － FUNCTION MAX － FUNCTION MIN － FUNCTION MEAN － FUNCTION MEDIAN － FUNCTION RANGE [B] － FUNCTION ANNUITY － FUNCTION NUMVAL － FUNCTION NUMVAL-C － FUNCTION RANDOM 3. 2.の関数の引数が、全て9桁以下の固定小数点数字である。かつ、 4. 2.の関数が[A]の場合、引数が4つ以上指定されている。
4	V10.0.1 ～ V11.0.0A	PH05538	以下の[条件1]～[条件3]のいずれかを満たす場合、COBOLプログラムの実行時、基底場所節に宣言したデータ項目を使用する文で、異常終了(ACCESS VIOLATION)または結果誤りが発生する場合がある問題を修正しました。 [条件1] 1. 基底場所節に宣言したデータ項目を以下のいずれかの方法で使用している。かつ、 1-1) 変数で添字付けしている。または、 1-2) 最左端文字位置に変数を指定した部分参照をしている。 2. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。(*) *:デフォルトはNOOPTIMIZEです。 [条件2] 1. 基底場所節に宣言したデータ項目を、以下のいずれかの文に指定している。 － INSPECT文 － STRING文(中核) － UNSTRING文(中核) [条件3] 1. 基底場所節にOCCURS句を指定したデータ項目を宣言している。かつ、 2. 1.のデータ項目をINITIALIZE文に指定している。
5	V10.1.0 ～ V11.0.0A	PH05861	以下の条件の場合、COBOLプログラムの実行時、部分参照した外部10進項目から数字編集項目または浮動小数点項目への転記において、送出し側を部分参照する範囲が1桁左にずれる誤りが発生する問題を修正しました。 1. 送出し側が符号付き外部10進項目、受取り側が数字編集項目または浮動小数点項目のMOVE文を記述している(*1)。かつ、 2. 送出し側項目のSIGN句にSEPARATE CHARACTER指定(*2)がある。かつ、

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			3. 送出し側項目を部分参照している。かつ、 4. 3.の部分参照の長さを定数で指定している場合。 *1: 暗黙のMOVE文を含む。 *2: TRAILING SEPARATE指定

注:VLは、障害が存在する範囲を示します。

2.2 NetCOBOL運用環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition クライアント運用パッケージ

2.2.1 文字コード範囲外のデータおよび不完全な文字のコード変換結果

変更内容

不当なデータによる誤動作を防ぐため、DISPLAY文、STRING文(書き方2)、UNSTRING文(書き方2)、印刷ファイルのWRITE文のデータ項目に格納されたデータのコード変換の結果がV10.5以前とV11.0以降で変更になりました。

a. 変換元の文字コード系の範囲外のデータのコード変換

文字コード系の範囲外のデータをコード変換した場合の変換結果が異なります。

V10.5以前

代替文字または文字が割り当たっていないコードなどに変換されます。

V11.0以降

実行時にコード変換エラーになり、以下のメッセージが出力されます。詳細コード 42 (0x2a)

- DISPLAY文：JMP0086I-W
- STRING文(書き方2)、UNSTRING文(書き方2)：オーバーフロー条件が生じます。ON OVERFLOW指定がない場合はJMP0260I-U
- 印刷ファイルのWRITE文：JMP0310I-I/U、JMP0320I-I/U (ファイルの入出力エラーが発生したときの実行結果に沿って実行されます。)

b. 不完全な文字のコード変換

サロゲートペアのコードが単独(上位または下位のみ)で格納されている、多バイト文字が欠けているなどの不完全な文字をコード変換した場合の変換結果が異なります。

V10.5以前

代替文字に変換されます。

V11.0以降

実行時にコード変換エラーになり、以下のメッセージが出力されます。詳細コード 22 (0x16) または 42 (0x2a)

- DISPLAY文：JMP0086I-W
- STRING文(書き方2)、UNSTRING文(書き方2)：オーバフロー条件が生じます。ON OVERFLOW指定がない場合はJMP0260I-U
- 印刷ファイルのWRITE文：JMP0310I-I/U、JMP0320I-I/U (ファイルの入出力エラーが発生したときの実行結果に沿って実行されます。)

対処方法

実行時メッセージの詳細コードを参考に、データ項目に正しい文字コードを格納するように修正してください。

2.2.2 コード変換の代替文字

変更内容

変換元の文字コードに対応する変換先の文字コードが存在しない場合に、置き換えられる代替文字が変更になりました。

V10.5以前

半角アンダースコア“_”

V11.0以降

変換先が英数字属性の場合、半角アンダースコア“_”

変換先が日本語属性の場合、全角アンダースコア“_”

対処方法

REPLACING CHARACTER句のALPHANUMERIC指定およびNATIONAL指定に半角アンダースコアを指定してください。

2.2.3 実行時メッセージの重大度コードの変更

変更内容

以下の実行時メッセージの重大度コードが変更になりました。

V10.5以前

JMP0086I-E文字コードの変換に失敗しました. \$1 \$2

V11.0以降

JMP0086I-W文字コードの変換に失敗しました. \$1 \$2

影響

重大度コードの変更により、COBOLプログラムの復帰コード(PROGRAM-STATUS)が変更になります。

対処方法

メッセージ集に記載された各々の実行時メッセージに対するプログラマの処置を参考に対処してください。

2.2.4 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL運用環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で実施された障害修正により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.2 NetCOBOL運用環境の障害修正に関する互換情報

項番	VL(注)	P番号	変更内容
1	V11.0.0	PH00258	以下の条件の場合、Unicodeアプリケーションの実行時に、可変長の日本語項目と表意定数との文字比較が正しく行われない問題を修正しました。

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			具体的には、COBOLプログラムのIF文等で文字比較を行ったとき、等しくないにも関わらず、等しいと誤って判定されることがあります。 1. NetCOBOL V11.0の開発環境で翻訳されたプログラムを実行している。かつ、 2. 次に示す翻訳オプションを指定して翻訳し、Unicodeアプリケーションを作成している。かつ、 － RCS(UCS2)またはRCS(UCS2,LE) － RCS(UTF16)またはRCS(UTF16,LE) － ENCODE(UTF8) － ENCODE(UTF8,UTF16) または ENCODE(UTF8,UTF16,LE) または ENCODE(UTF8,UTF16,BE) － ENCODE(UTF8,UTF32) または ENCODE(UTF8,UTF32,LE) または ENCODE(UTF8,UTF32,BE) [補足]RCSオプションの省略値はRCS(SJIS)、ENCODEオプションの省略値はENCODE(SJIS,SJIS)です。 3. 日本語項目(日本語編集項目または関数の型が日本語となる組込み関数を含む)と表意定数(ALL定数またはSPACE)の文字比較である。かつ、 4. 3.の日本語項目が次のいずれかの指定により可変長である。かつ、 － 部分参照子の長さにデータ名を指定している － 部分参照子の最左端文字位置にデータ名を指定し、長さを省略している － ANY LENGTH句を指定している [補足] 関数の型が日本語となる組込み関数にはANY LENGTH句は指定できません。 5. 比較対象の日本語項目のエンディアンがリトルエンディアンである(注)。かつ、 6. 日本語1文字毎の下位1バイト(リトルエンディアン表現では先頭1バイト)以外は等しい文字同士である。かつ、 7. 6.の下位1バイト(リトルエンディアン表現では先頭1バイト)が異なる文字を比較した場合。 (注)エンディアンがリトルエンディアンになる条件は、以下のいずれかの場合。 ・ 次に示す翻訳オプションを指定して翻訳している場合。 － RCS(UCS2) － RCS(UCS2,LE) － RCS(UTF16) － RCS(UTF16,LE) ・ 次に示す翻訳オプションを指定して翻訳したプログラムで、日本語項目にENCODING句を指定していない場合。 － ENCODE(UTF8) － ENCODE(UTF8,UTF16) － ENCODE(UTF8,UTF16,LE) － ENCODE(UTF8,UTF32) － ENCODE(UTF8,UTF32,LE)

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			- ALPHABET句で次に示すエンコード方式が関連づけられた符号系名を日本語項目のENCODING句に指定している場合。 - UTF16 - UTF16LE - UTF32 - UTF32LE [可変長のコーディング例] <pre> DATA DIVISION. WORKING-STORAGE SECTION. 01 NDATA PIC N(100) VALUE NC"富士通ふじつう". 01 LEN PIC 9(3) VALUE 10. 01 COUNTER PIC 9(3). PROCEDURE DIVISION. MOVE 4 TO COUNTER. IF NDATA(4:10) = SPACE ~ <---- OK(固定長) IF NDATA(4:) = SPACE ~ <---- OK(固定長) IF NDATA(4:LEN) = SPACE ~ <---- NG(可変長) ★★ IF NDATA(COUNTER:10) = SPACE ~ <---- OK(固定長) IF NDATA(COUNTER:) = SPACE ~ <---- NG(可変長) ★★ IF NDATA(COUNTER:LEN) = SPACE ~ <---- NG(可変長) ★★ </pre>
2	V10.1.0 ～ V11.0.0	PH01026	以下の発生条件の場合、COBOLプログラムの実行時に、日本語空白を2バイトのANK空白と見なした文字比較が正しく判定されない問題を修正しました。 - 翻訳オプションNSPCOMP(ASP)を指定して翻訳したプログラムを実行している。かつ、 - 次のいずれかの指定により、データ項目のエンコードがシフトJISである。かつ、 - 翻訳オプションRCS省略時、または 翻訳オプションRCS(SJIS)指定時、または 翻訳オプションENCODE(SJIS,SJIS)指定時 - 次のいずれかの文字比較を行っている。かつ、 - 日本語項目を作用対象とする日本語文字比較 - 集団項目を作用対象とする文字比較 ただし、次に示す条件を除く。 - 日本語項目を含まない集団項目同士の比較 - 明または暗に属性が表示用でない項目を含む集団項目の比較 3.の文字比較で比較対象の文字が次の文字コードの範囲である。かつ、 - X"8181"～X"819F" - X"81E0"～X"81FC" - 比較対象のどちらか一方は、4)の文字位置の次の文字が日本語空白(X"8140")である。かつ、 5.の他方が次のいずれかである場合。 5.の日本語空白と同じ文字位置に2バイトのANK空白(X"2020")がある。 4.の文字位置がデータ項目の末尾である。
3	V11.0.0	PH03200	以下の条件の場合、COBOLプログラムの実行時に、索引キー項目の大小順序どおりにレコードが書き出されない問題を修正しました。

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			派生する現象として、意図したレコードが読み込まれない場合があります。 1. 翻訳オプションENCODE(SJIS,SJIS)を指定して翻訳したプログラムを実行している。かつ、 2. 主レコードキー、または副レコードキーの項目属性が日本語項目である。かつ、 3. WRITE文を実行した場合。
4	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG97090	以下の条件のとき、COBOLプログラム実行時、NATIONAL-OF関数で変換した文字に対応する日本語文字がなかった場合、引数-2に指定した代用文字に正しく置き換わらない問題を修正しました。 1. 翻訳オプションRCS(UTF16,BE)を指定して翻訳したプログラムである。かつ、 2. NATIONAL-OF関数を使用している。かつ、 3. 2.の関数に引数-2を指定している。かつ、 4. 2.の関数に指定した引数-1に英数字文字ではないデータが指定され、内部的にコード変換エラー(対応する日本語文字がない)が発生した場合。
5	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG76651	以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時に、長さの異なる日本語項目(日本語編集項目、組込み関数を含む)同士の大小比較の結果が正しくない問題を修正しました。 1. 翻訳オプションRSC(UCS2,LE)またはRSC(UTF16,LE)を指定している。かつ、 2. 日本語項目と、日本語項目または日本語文字定数の大小比較である。かつ、 3. 少なくとも一方が部分参照された項目またはANY LENGTH句の指定がある項目である。かつ、 4. 比較対象の長さが異なる場合。 注: V11.0以降のNetCOBOLコンパイラで翻訳した場合のみ修正されます。
6	V10.1.0	PG77099	以下の条件の場合、実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADが有効にならず、ACCEPT文のファイル入力で、プロセスで1つの入力ファイルが共有される問題を修正しました。(*) 1. マルチスレッドで動作するアプリケーションである。かつ、 2. 実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定している。かつ、 3. ACCEPT文を実行しファイルからデータを入力した。 *: 実行環境変数@CBR_SSIN_FILE=THREADを指定した場合、ACCEPT文のファイル入力で、スレッド単位に入力ファイルをオープンすることができます。
7	V10.1.0	PG73346	以下の条件の場合、実行時に、実行時メッセージJMP0320I-I/Uに埋め込まれる8桁の16進文字の下位4桁に不要なゼロ列が設定される問題を修正しました。 1. COBOLファイルシステム(*)を使用したファイル操作を行っている。かつ、 2. 以下のいずれかの入出力文を実行している。かつ、 － READ文 － WRITE文 － REWRITE文 － DELETE文 － START文 3. 2.の入出力文の実行が失敗した。 *: ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。

項番	VL(注)	P番号	変更内容
8	V10.1.0	PG79852	以下の条件の場合、COBOLアプリケーションの実行中にアプリケーションエラーまたは実行時メッセージが発生した時、診断機能において、診断レポートを出力する前に以下の予期せぬメッセージが出力される問題を修正しました。 ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。 1. 環境変数@CBR_JUSTINTIME_DEBUG=NOが設定されていない。かつ、 2. 診断対象であるプロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(*)を作成しているものがある。かつ、 3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、 4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、 5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。 *:デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。
9	V10.1.0	PG79859	以下の条件の場合、NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用してCOBOLアプリケーションをデバッグした時、デバッグ中に以下の予期せぬメッセージが出力される問題を修正しました。 ドライブにディスクがありません。ディスクをドライブに挿入してください。 1. NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能でCOBOLアプリケーションをデバッグしている。かつ、 2. デバッグ対象プロセスで動作するロードモジュールにデバッグ情報ファイル(PDBファイル)(*)を作成しているものがある。かつ、 3. 2.で示したロードモジュールの格納されたフォルダに2.で示したデバッグ情報ファイルが存在しない。かつ、 4. NetCOBOLを使用しているシステムにおいて、仮想CDドライブのマウント解除などにより、現在は参照できない状態のドライブがある。かつ、 5. 2.で示したデバッグ情報ファイルを作成したドライブと、4.で示した参照できない状態のドライブのドライブ文字が一致している。 *:デバッグ情報ファイル(PDBファイル)は、リンクコマンドにリンクオプション"/DEBUG"を指定した場合に作成されます。
10	V10.1.0 ～ V11.0.0A	PH06622	以下の条件のとき、COBOLプログラム実行時にFORMAT句なし印刷ファイルのREDEFINES句を指定した項目を含む集団項目の出力で、CHARACTER TYPE句またはPRINTING POSITION句が有効にならず、指定した印字属性または印字位置が正しく出力されない問題を修正しました。 UNICODEアプリケーションの場合、上記現象に加えて、以下の現象が発生する場合があります。 ・ 実行時メッセージ － 実行時メッセージ「JMP0320I 'CNVER=xx」が出力される ・ 日本語項目の文字化け － 日本語項目に格納したデータの印字結果が文字化けする [条件] 1. FORMAT句なし印刷ファイルを使用している。かつ、

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			2. 帳票出力に連携製品を使用せずにプリンタに直接出力している。かつ、 3. WRITE文に指定したレコード項目またはWRITE文のFROM句に指定したデータ項目がREDEFINES句を指定したデータ項目を従属する集団項目である。かつ、 4. 3.のREDEFINES句を指定した集団項目に次のいずれかを記述している。かつ、 — 従属する集団項目がある。 — 従属する日本語項目がある。 — 従属するデータ項目に有効となるCHARACTER TYPE句を指定している。(*1) — 従属するデータ項目に有効となるPRINTING POSITION句を指定している。(*1) 5. 3.のREDEFINES句を指定した集団項目以降の3.と同じレベル番号に次のいずれかを記述している場合。 — CHARACTER TYPE句を指定した基本項目または集団項目がある。 — PRINTING POSITION句指定した基本項目または集団項目がある。 — 従属するデータ項目に有効となるCHARACTER TYPE句を指定している集団項目がある。 — 従属するデータ項目にPRINTING POSITION句を指定している集団項目がある。 (*1): 次のいずれかの項目にREDEFINES句を指定した場合、翻訳時にJMN2224I-W が出力され、項目に指定したCHARACTER TYPE句またはPRINTING POSITION句が無効であることを警告されます。 • CHARACTER TYPE句指定またはPRINTING POSITION句を記述したデータ項目 • CHARACTER TYPE句またはPRINTING POSITION句が有効になるデータ項目を従属する集団項目 [現象が発生するプログラム例] <pre> DATA DIVISION. WORKING-STORAGE SECTION. 01 DATA1. 03 DATA2. 05 DATA31. 07 DATA31A PIC X(10). 05 DATA32 REDEFINES DATA31. 07 DATA32A. *>発生条件4 09 DATA32A1 PIC X(5). 09 DATA32A2 PIC X(5). 05 DATA33. *>発生条件5 07 DATA33A PIC N(5) MODE-1. PROCEDURE DIVISION. WRITE PRINT-REC FROM DATA1 AFTER PAGE. *>発生条件3 </pre>

注: VLは、障害が存在する範囲を示します。

2.3 MeFt

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

- ・ NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ



参考

V10以前のMeFtは単品製品としても提供されています。

NetCOBOLシリーズに含まれるMeFtのバージョン・レベルは、“[表A.1 NetCOBOLシリーズのバージョン・レベルとコンポーネントのバージョン・レベル対応表](#)”を参照してください。

2.3.1 プリント情報ファイルのBOMの扱い

変更内容

プリント情報ファイルのUnicodeサポートに伴い、BOM(UTF-8)が付加されているプリント情報ファイルを使用できるようになりました。これにより、BOM(UTF-8)が付加されているプリント情報ファイルを入力した場合の動作が、以下のように異なります。

V10以前

BOMを文字データの一部として読み込みます。

入力したファイルの1行目に有効になるべきキーワードが記述されている場合、キーワードの先頭にBOMが付加された状態で読み込まれるため、記述したキーワードが無効になっていることがあります。

V11以降

BOMをUTF-8の識別コードと認識し、読み飛ばします。

入力したファイルの1行目に有効になるべきキーワードが記述されている場合、ファイルの先頭のBOMは読み飛ばされるため、記述したキーワードが有効になります。

影響

プリント情報ファイルがBOM付きUTF-8ファイルの場合、V10までは1行目に記述した内容が無効になっていましたが、V11以降では1行目に記述した内容が有効になります。1行目がコメント行または空行などの有効な情報を持たない行である場合は、アプリケーションの動作に変更はありません。

対処方法

1行目を削除またはコメント化して、情報が無効になるように修正してください。

2.3.2 移行時の注意事項

ここでは、Windows(x86)版およびWindows(Itanium)版のMeFtから、本版製品へ移行した際の注意事項について記載します。

帳票資産の互換性

Windows(x86)版およびWindows(Itanium)版のMeFtで使用していた帳票資産(画面帳票定義体、帳票定義体、オーバーレイ定義体)には互換がありそのまま使用できますが、OSおよびプリンタ環境の違いにより、出力結果については微妙に異なる場合があります。

環境変数

Windows(x86)版およびWindows(Itanium)版のMeFtのインストール時に設定していた以下の環境変数については、本製品では設定を行いません。

- ・ LIB (ライブラリの格納フォルダ)
- ・ INCLUDE (インクルードの格納フォルダ)

C言語での利用者プログラムの開発時には、ソリューションのプロパティで以下の格納フォルダを指定してください。

- ・ ライブラリの格納フォルダ: 製品のインストールフォルダ¥Lib
- ・ インクルードの格納フォルダ: 製品のインストールフォルダ¥Include

障害修正に関する互換情報

Windows(x86)版およびWindows(Itanium)版のMeFtで修正された障害により動作が変わるものを、以下に説明します。

1. 項目領域長に文字列がおさまらない場合、V4.0以前では、すべての文字が出力されない場合がありますでしたが、本版では、すべての文字が出力されるようになります。ただし、文字の幅が項目領域長におさまらないような条件の場合は、旧バージョンと同様出力されません。
2. 罫線や網がけの印刷をした場合、V4.0以前と出力結果が変わることがあります。旧バージョンと同一にする場合は、プリンタ情報ファイルのQUALITYPRT(罫線・網がけ制御指定)に「速度重視」を指定してください。しかし、罫線や網がけの指定によっては、「速度重視」が有効にならずV4.0以前と同一の出力結果にならないことがあります。「速度重視」が有効にならない条件は、QUALITYPRT(罫線・網がけ制御指定)の注意事項を参照してください。
3. 読み込み時にコード変換が発生し、変換できない文字があった場合、V4.0以前では'・'または'_'(空白)で印刷されていました。V5.0では'?'で印刷されます。本版では、コード変換できない文字は、全角の場合は全角の'_'に、半角の場合は半角の'_'になります。ただし、置換する文字を、プリンタ情報ファイルのREPKANJI(置換漢字文字指定)、REPANK(置換ANK文字指定)で指定できます。
4. 圧縮で文字ピッチを省略した場合に、V4.0以前では項目領域長に対して文字列長が短く印刷される場合がありますでしたが、本版では、項目領域長と同じ文字列長で印刷されます。
5. V5.0以降では、帳票定義体の場合に、プリンタ情報ファイルのJALIGN(文字出力の位置補正)の"UC"および"UL"の指定は無効になります。
6. V5.0以降では、パーティション形式の印刷でプリンタヘッド位置よりパーティション開始位置が上の条件になった場合、改ページ処理が発生します。
7. 帳票定義体の1行目に定義した文字が、V5.0以前では正しい位置に印刷されない場合がありますでしたが、本版では正しい位置に印刷されます。ただし、用紙の上端に項目を定義している場合は、システムが採用するフォントのサイズにより、出力する文字が用紙の上端を超えることがあります。その場合、文字が出力されないことがありますので、注意が必要です。
8. 帳票を電子保存する場合、以下の相違があります。
 - 本版では、帳票に指定した拡大/縮小指定が有効となります。
このため、拡大/縮小を指定した帳票を出力した場合、V7.0以前での出力結果と相違が生じることがあります。この場合は、帳票の拡大/縮小の指定を行わないでください。
 - 本版ではV7.0以前と比較して、画面帳票定義体を使用した場合は1/1440インチ、帳票定義体を使用した場合は2/1440インチ、下方に出力されます(本版での項目出力位置が、正しい出力位置となります)。そのため、V7.0以前で電子帳票保存した帳票をデータ変換した場合、データ変換されない項目がありますので、注意が必要です。
なお、V7.0以前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTLWOLDPOS”に“Y”を指定してください。
 - 帳票定義体のプロパティの拡大／縮小印刷タブで、任意印刷サイズに「任意」を指定し、かつ「等方性の保証」を指定しない場合、V8.0以前では指定した横幅、縦幅が逆転して電子帳票保存されますが、本版では、正しく保存されます。
 - V10.0.0D以前では、OCR-B項目の出力時、直前に出力した文字項目の拡大/縮小属性が引き継がれ、OCR-B文字が拡大/縮小されて出力されますが、本版では、正しく出力されます。
なお、V10.0.0D以前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTLWOLDOCR”に“C”を指定してください。
9. V8.0L10以前では、プリンタ情報ファイルのバーコード描画の以下の調整用キーワードが無効となる場合がありますでしたが、本版では必ず有効となります。
 - BARGAP(キャラクタ間ギャップ幅指定)

- BARNWRATIO (細太エレメント比指定)
- BARQZONE (クワイエットゾーンの描画方法指定)
- BARFNC1 (ファンクションキャラクタ‘FNC1’指定)
- BARFNC2 (ファンクションキャラクタ‘FNC2’指定)
- BARFNC3 (ファンクションキャラクタ‘FNC3’指定)
- BARFNC4 (ファンクションキャラクタ‘FNC4’指定)

10. V10.0.0B以前では、矩形混在項目または矩形英数字項目で、文字列が出力できる桁数分の空きがあっても次の行に送られて出力される場合がありますが、本版では、正しく前の行に出力されるようになります。
 なお、V10.0.0B以前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTWRAPCONTROL”に“1”を指定してください。

11. 以下のフォントに対して文字を登録し、このフォントをList Creator のPDFフォント登録機能で登録しPDFファイルに出力した場合、V10.0.0B以前では登録した文字が「・」などで出力されていましたが、本版では、登録した文字で出力されるようになります。
- FUJ明朝体
 - FUJゴシック体
 - @FUJ明朝体
 - @FUJゴシック体

なお、V10.0.0B以前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTPDFFONTSEARCH”に“2”を指定してください。

12. V10.0.0C以前では、フリーフレーム形式の帳票定義体で用紙の改ページ後、帳票定義体を切り替えて出力を行うと、異常動作(*1)となる場合がありますが、本版では、正しく出力されるようになります。

*1: 出力形態により、現象が異なります。

以下は、2ページ目で帳票定義体を切り替えて出力した場合の結果です。

- 印刷の場合 (正常動作)
 正常終了し、2ページ印刷されます。
- 印刷プレビューの場合 (異常動作)
 正常終了するが、出力ページ数は3ページとなり、2ページ目で「There is not the 2th-page EMF file」のメッセージボックスが出力され、表示できません。
- PDF出力の場合 (異常動作)
 出力処理が通知コード“9M”でエラー終了します。
- ListWORKS電子保存の場合 (異常動作)
 正常終了するが、出力ページ数は3ページとなり、2ページ目は白紙が出力されます。

なお、V10.0.0C以前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTFRAMEPGSKIP”に“C”を指定してください。

13. V10.0.0E以前では、両面印刷を指定した帳票を電子保存し印刷した場合、表面を指定した帳票定義体が途中のページから裏面に出力される場合がありますが、本版では、正しく出力されるようになります。
 なお、V10.0.0E以前の動作に戻す場合、プリンタ情報ファイルのキーワード“LWOLDPRINTSIDE”に“C”を指定してください。

2.3.3 未サポート機能

Windows(x64)版の本製品では、以下の機能は未サポートです。

文字コード

文字コードとして、EBCDICおよびJEFは使用できません。使用した場合は、MEFD_RC_JEFLOAD(GF)のエラーとなります。
また、関連する以下のキーワードは無効となります。

JEFEXTN (JEF拡張漢字サポートの有無)
EUCGAJI (外字複写元位置)
JISTYPE (JIS年式指定)
ASPEBCCONV (ASP互換用コード変換ルーチン使用指定)

印刷機能

- DDOVL (機種依存オーバーレイ使用指定)は使用することができません。指定した場合は、MEFP_RC_DDOVLLD(9E)のエラーとなります。
- 画像ファイルの印刷 (OLEの印刷)
画像ファイルの印刷を行う場合、OLEは印刷できません。OLEの印刷を行った場合は、MEFD_RC_OLELOAD(GB)のエラーとなります。
- 多目的プリンタ機能
多目的プリンタ機能は使用できません。使用した場合は、MEFP_RC_IMDLOAD(9B)のエラーとなります。
また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

PRTACS (印刷形態)
UPSIZE (上端寸法)
UNLOAD (排出口指定)

- XML入出力処理
XMLでの入出力は行えません。使用した場合は、MEFP_RC_STREAMLOAD(9H)のエラーとなります。
また、関連するプリンタ情報ファイルの以下のキーワードは無効となります。

STREAM (ストリーム種別指定)
STREAMFILE (ストリーム出力ファイル名指定)

他システムとの連携

- MeFt/NETとの連携は行えません。
- リモート表示ファイルサービスとの連携は行えません。

プログラムインタフェース

- Visual Basic
プログラムインタフェースとしてVisual Basicは利用できません。

2.3.4 障害修正に関する互換情報について

ここでは、MeFtについて、NetCOBOL V10.2.0以降で実施された障害修正により動作が変わるものを、以下の表で説明します。

表2.3 MeFtの障害修正に関する互換情報

項番	V/L(注)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG78188	以下の条件の時、フリーフレーム形式の帳票定義体で用紙の改ページ後、帳票定義体を切り替えて出力を行うと、不要なメッセージウィンドウが表示される問題を修正しました。 1. フリーフレーム形式の帳票定義体を使用する。かつ、 2. フレームの縦位置が0以外である。かつ、 3. フレームに含まれるパーティションを出力する。かつ、

項番	V/L(注)	P番号	変更内容
			4. “用紙の改ページ”を指定してプリンタ装置の制御を呼び出す。または、“出力して改ページ”を指定してパーティション出力を呼び出す。または、最終リンクフレームで“改フレーム”を指定して出力する。かつ、 5. 帳票定義体を切り替えて出力を行う。かつ、 6. 印刷プレビューを行った。 なお、修正前の動作に戻す場合、環境変数“MEFTFRAMEPGSKIP”に“C”を指定してください。 例) バッチファイルで、環境変数"MEFTFRAMEPGSKIP"に値"C"を設定する場合 set MEFTFRAMEPGSKIP=C
2	V10.1.0	PG77027	[変更内容1] 以下の条件の時、本来、次行に送り出されるべきでない文字列が次行に送り出される問題を修正しました。 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「句読点のぶら下げ」または「行頭／行末禁則」のいずれかをONにした。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行の末尾が空白である。かつ、 4. 3.の行末尾の空白の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字が2個以上連続している。かつ、 5. 4.の文字列の直前が空白文字である。かつ、 6. 5.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 [備考] 変更内容1について、修正前の動作に戻す場合、以下の環境変数を指定してください。 環境変数:MEFTWRAPCONTROL 設定値:1 例) バッチファイルで、環境変数"MEFTWRAPCONTROL"に値"1"を設定する場合 set MEFTWRAPCONTROL=1 [変更内容2] 以下の条件の時、本来、複数行に分割されるべきでない文字列が分割される問題を修正しました。 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「行頭／行末禁則」をONにし「行頭および行末」または「行末のみ」を指定した。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行でワードラップや行頭・行末禁則による追い出しが発生した。かつ、 4. 3.の追い出しを行ったあと、行末尾が空白となる。かつ、 5. 4.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の行末禁則文字である。かつ、 6. 5.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字である。かつ、 7. 6.の文字列の直前が空白である。かつ、 8. 7.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 [備考]

項番	V/L(注)	P番号	変更内容
			変更内容2については、実行時に、以下の環境変数を指定することで修正が有効となります。 環境変数:MEFTWRAPCONTROL 設定値:2 例) バッチファイルで、環境変数"MEFTWRAPCONTROL"に値"2"を設定する場合 <pre>set MEFTWRAPCONTROL=2</pre>

注:V/Lは、障害が存在する範囲を示します。

2.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

SIMPLIA/COBOL支援キットは、以下の製品に含まれています。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

2.4.1 TF-MDPORT

互換に関する情報はありません。

2.4.2 TF-LINDA

互換に関する情報はありません。

2.4.3 MF-STEP COUNTER

互換に関する情報はありません。

2.4.4 TF-EXCOUNTER

互換に関する情報はありません。

2.5 PowerSORT Server

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ



参考

PowerSORT ServerおよびPowerSORTは単品製品としても提供されています。

NetCOBOLシリーズに含まれるPowerSORTのバージョン・レベルは、“[表A.1 NetCOBOLシリーズのバージョン・レベルとコンポーネントのバージョン・レベル対応表](#)”を参照してください。

2.5.1 テキストファイル浮動フィールド指定のキーフィールドについて

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10までは、「キーフィールドが存在しないレコードが入力されました。」というエラーメッセージを出力してエラー終了していました。

1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、

2. キーフィールドが存在しないレコードが入力された。

PowerSORT V6.0.0以降では、テキストファイル固定フィールド指定の場合と同様に、キーフィールドの値を0x00とみなして処理するように変更しました。

影響

テキストファイル浮動フィールド指定においてキーフィールドが存在しないレコードが入力されても、エラーが発生しません。

対処方法

ありません。



参考

ここに記載した「キーフィールドが存在しないレコード」とは、指定されたキーフィールドのフィールド番号が存在しないレコードを意味します。

例) キーフィールドの指定が「2.1asca」、フィールド分離文字がカンマ(,)の場合

fld0, fld1, fld2, fld3	: キーフィールドが存在するレコード
fld0, fld1	: キーフィールドが存在しないレコード

2.5.2 先入力先出力(FIFO)機能について

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10までは、エラーメッセージを出力してエラー終了していました。

1. 先入力先出力(FIFO)機能を指定している。かつ、
2. コピー機能、レコード集約機能、またはサブレス機能を指定している。

PowerSORT V6.0.0以降では、先入力先出力(FIFO)機能の指定を無視して動作するように変更しました。

影響

先入力先出力(FIFO)機能と同時にコピー機能、レコード集約機能、またはサブレス機能を指定しても、エラーが発生しません。

対処方法

ありません。

2.5.3 マージ機能について

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10までは、同一なキーフィールドを持つレコードをレコード入力順に並べていました。

1. マージ機能を指定している。かつ、
2. 先入力先出力(FIFO)機能を指定している。

PowerSORT V6.0.0以降では、先入力先出力(FIFO)機能の指定を無視して動作するように変更しました。同一なキーフィールドを持つレコードは、入力ファイルの指定順(同一ファイル内のレコードは、ファイル内の順)に出力されます。

また、以下の条件のとき、PowerSORT V5.0L10までは、同一なキーフィールドを持つレコードの中から、レコード入力順の最初、または最後のレコードを出力していました。

1. bsortexコマンドを使用している。かつ、
2. マージ機能を指定している。かつ、
3. レコード集約機能、またはサブレス機能を指定している。かつ、

4. firstオペランド、またはlastオペランドを指定している。

PowerSORT V6.0.0以降では、同一なキーフィールドを持つレコードの中から、入力ファイルの指定順(同一ファイル内のレコードは、そのファイル内の順)の最初、または最後のレコードを出力するように変更しました。

影響

同一なキーフィールドを持つレコードの出力される順、または同一なキーフィールドを持つレコードの中から出力されるレコードが変わります。

対処方法

ありません。



参考

マージ機能では、各入力ファイルから1レコードずつ入力し、指定されたキーフィールドの順に出力ファイルへ出力していきます。また、次のレコード入力は、出力されたレコードが属していた入力ファイルから行われます。このため、レコードの入力順は、各入力ファイル内のレコードによって変わります。この結果、PowerSORT V5.0L10まででマージ機能に先入力先出力(FIFO)機能を組み合わせて指定した場合、またはマージ機能にレコード集約機能、またはサブレス機能を組み合わせて指定し、firstオペランド、またはlastオペランドで出力するレコードを指定した場合、処理する入力ファイルによって結果が異なっていました。

2.5.4 富士通COBOLファイルシステムの可変長レコード形式について

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10までは、富士通COBOLファイルシステムによって、指定した最大レコード長を超える部分が切り捨てられることがありました。

1. 入力ファイルシステムが、富士通COBOLファイルシステム(順ファイル)、富士通COBOLファイルシステム(BSAM対応順ファイル)、または富士通COBOLファイルシステム(索引ファイル)である。かつ、
2. レコード形式が可変長レコード形式である。かつ、
3. 指定した最大レコード長より長いレコードが存在する。

PowerSORT V6.0.0以降では、「ファイル(※ファイル名)からのレコード入力中にエラー(miss match record-length)が発生しました。」というエラーメッセージを出力してエラー終了するように変更しました。

影響

富士通COBOLファイルシステム(順ファイル)、富士通COBOLファイルシステム(BSAM対応順ファイル)、または富士通COBOLファイルシステム(索引ファイル)において、指定した最大レコード長を超えるレコードが存在する場合、エラーが発生します。

対処方法

富士通COBOLファイルシステム(順ファイル)、富士通COBOLファイルシステム(BSAM対応順ファイル)、または富士通COBOLファイルシステム(索引ファイル)の可変長レコード形式のファイルを処理する場合、レコード長には、実際の最大レコード長以上を指定してください。

2.5.5 「+0」と「-0」を表現できるデータ形式について

変更内容

PowerSORT V5.0L10までは、「+0」と「-0」を表現できるデータ形式において、「+0」と「-0」は異なる値として処理(ソート処理、マージ処理、レコード集約処理、サブレス処理、およびレコード選択処理)していました。

PowerSORT V6.0.0以降では、同値として処理するように変更しました。

影響

「+0」と「-0」の値を持つレコードの出力順、出力されるレコード、またはレコード選択機能の結果が異なることがあります。

対処方法

PowerSORT V6.0.0以降において「+0」と「-0」を異なる値として処理する場合は、環境変数BSORT_SIGNEDZEROにEFFECTを指定してください。



参考

「+0」と「-0」を表現できるデータ形式を以下に示します。

- ・ 内部10進数
- ・ 外部10進数
- ・ 前置別符号付数字
- ・ 後置別符号付数字
- ・ 前置オーバパンチ符号付数字
- ・ 後置オーバパンチ符号付数字
- ・ テキストファイルにおいて、キーフィールド、および選択フィールドの操作としてn(BSOPT_NUMERIC)を指定した場合、またはキーフィールドの操作としてN(BSOPT_CHARNUM)を指定した場合

2.5.6 メッセージの出力形式について

変更内容

PowerSORT V5.0L10までは、メッセージは、メッセージ本文だけを出力していました。

PowerSORT V6.0.0以降では、メッセージは、ヘッダー、メッセージ種別、日付と時刻、メッセージ番号、およびメッセージ本文を出力するように変更しました。

影響

出力されるメッセージの形式が異なります。

対処方法

PowerSORT V6.0.0以降において、メッセージ本文だけを出力したい場合は、環境変数BSORT_MSGSTYLEに1を指定してください。

2.5.7 一時ファイル容量不足時のメッセージについて

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10までは、「一時ファイルの容量が足りません。」というエラーメッセージを出力してエラー終了していました。

1. ソート機能を指定している。かつ、
2. 一時ファイルの容量不足を検出した。

PowerSORT V6.0.0以降では、「一時ファイルの容量が足りません。」というエラーメッセージに続いて、「一時フォルダ(※フォルダ名)を使用しました。」(注1)、または「一時ファイル(※ファイル名)を使用しました。」(注2)というエラーメッセージを出力するように変更しました。

注1) 一時ファイルを作成するフォルダ名を指定した場合、または一時ファイルの指定を省略した場合に出力されます。

注2) 一時ファイルのファイルパス名を指定した場合に出力されます。

影響

出力されるメッセージが増加します。

対処方法

ありません。

2.5.8 処理定義ファイルについて

変更内容

以下の条件の場合、PowerSORT V5.0L10までは、環境変数BSORT_MSGLEVELの指定に関わらず、「メッセージを何も出力しない」という設定で動作していました。

1. bsortコマンドを使用している。かつ、
2. 処理定義ファイルオプション(-P)を指定している。

PowerSORT V6.0.0以降では、環境変数BSORT_MSGLEVELの指定に従うように変更しました。

影響

環境変数BSORT_MSGLEVELの指定に従ってメッセージが出力されます。

対処方法

PowerSORT V6.0.0以降において、「メッセージを何も出力しない」という設定で動作させる場合は、環境変数BSORT_MSGLEVELにNを指定してください。

2.5.9 アプリケーションログへのメッセージ出力について

変更内容

PowerSORT V5.0L10までは、環境変数BSORT_EVENTLOGにYESを指定した場合にアプリケーションログへ出力されるメッセージは、以下の表のとおりでした。また、イベントIDとしてBSORT関数のエラー詳細コード(errdetail)を設定していました。

イベントID	メッセージ
52	PowerSORTの動作に必要なメモリを確保できませんでした。
200	ファイルからレコードの読み込み中にエラーが発生しました。
201	ファイルへのレコード書き込み中にエラーが発生しました。
224	一時ファイルへの書き込み中にエラーが発生しました。
225	一時ファイルからの読み込み中にエラーが発生しました。
231	COBOLのファイルシステムのエラーが発生しました。
243	COBOL索引ファイルシステムでエラーを検出しました。
250	PowerSORTの処理に誤りがあります。

PowerSORT V6.0.0以降において、環境変数BSORT_EVENTLOGにYESを指定した場合にアプリケーションログへ出力されるメッセージについては、ユーザズガイドの「アプリケーションログへの出力メッセージ」を参照してください。また、イベントIDとしてメッセージ番号を設定するように変更しました。

影響

アプリケーションログに出力されるメッセージ、およびイベントIDが変更になります。

対処方法

ありません。

2.5.10 BSORT関数の定義値変更について

変更内容

PowerSORT V6.0.0以降では、BSORT関数における各構造体のメンバーに設定可能な定義値を以下のように変更しました。

構造体	メンバー	V5.0L10以前の定義値	V6.0.0以降の定義値
BSRTPRIM	keyoption	BS_BLANK	BSOPT_BLANK
		BS_DICTIONARY	BSOPT_DICTIONARY
		BS_IGNORE	BSOPT_IGNORE
		BS_JUNBO	BSOPT_JUMBO
		BS_NUMERIC	BSOPT_NUMERIC
		BS_CHARNUM	BSOPT_CHARNUM
	keyoption2	BS_WCHR	BSOPT2_WCHR
BSKEY	key_option	BSOPT_B	BSOPT_BLANK
		BSOPT_D	BSOPT_DICTIONARY
		BSOPT_I	BSOPT_IGNORE
		BSOPT_J	BSOPT_JUMBO
		BSOPT_K	BSOPT_KANJI
		BSOPT_N	BSOPT_NUMERIC
		BSOPT_LN	BSOPT_CHARNUM
	key_option2	BSOPT2_W	BSOPT2_WCHR
BSSELE	sele_option	BSOPT_B	BSOPT_BLANK
		BSOPT_D	BSOPT_DICTIONARY
		BSOPT_I	BSOPT_IGNORE
		BSOPT_J	BSOPT_JUMBO
		BSOPT_N	BSOPT_NUMERIC
	sele_option2	BSOPT2_W	BSOPT2_WCHR

影響

以前のバージョンとの互換のため、PowerSORT V5.0L10以前の定義値もV6.0.0以降で使用可能です。このため、影響はありません。

対処方法

以前のバージョンとの互換のため、PowerSORT V5.0L10以前の定義値もV6.0.0以降で使用可能です。このため、以前のバージョンで作成したソースを修正する必要はありません。

2.5.11 障害修正に関する互換情報

ここでは、PowerSORT V6.0.0以降で実施された障害修正により動作が変わるものを以下の表で説明します。

表2.4 PowerSORTの障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*1)	P番号	変更内容
1	V5.0L10 ～ V7.0.0	PH05442	以下の条件の場合、PowerSORTの実行で、レコード内に再編成フィールドまたは選択フィールドが存在するかどうかのチェックが正しく行われなかったことがありますが、PowerSORT Server (64bit) V7.0.1以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. レコード形式が以下のいずれかである。かつ、 3. バイナリファイル可変長レコード形式(-recordオプションのrecformオペランドが"var")

項番	V/L(*1)	P番号	変更内容
			4. テキストファイル固定フィールド指定のレコード形式(-recordオプションのrecformオペランドが"txtfix") 5. 2つ以上の出力ファイル情報オプション(-output)を指定している。かつ、 6. 2つ以上の出力ファイル情報オプション(-output)で以下のいずれかの機能を指定している。かつ、 7. レコード再編成機能(reconstオペランド) 8. レコード選択機能(include/omit/caseオペランド) 9. レコード再編成機能の場合、再編成フィールドとしてレコード内のフィールドを指定している("pos.len"の形式または"pos.END"の形式)。かつ、 10. それぞれの出力ファイル情報オプション(-output)で指定した再編成フィールドの最大位置(「変位+長さ-1」の最大値)または選択フィールドの最大位置(「変位+長さ-1」の最大値)が異なる。
2	V6.0.0	PG76059	以下の条件の場合、PowerSORTが実行結果誤り、無限ループ、または異常終了することがありましたが、PowerSORT V6.0.0A (*2)以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortコマンド、bsortexコマンド、またはBSORT関数を使用している。かつ、 2. ソート機能を指定している。かつ、 3. テキストファイルCSV形式またはテキストファイルTSV形式を指定している。かつ、 4. レコード集約機能または出力ファイルのレコード選択機能を指定している。かつ、 5. 集約フィールドまたは選択フィールドがダブルクォーテーションで囲まれている。
3	V6.0.0	PG76539	以下の条件の場合、PowerSORTが実行結果誤り、または異常終了することがありましたが、PowerSORT V6.0.0A (*2)以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイルCSV形式またはテキストファイルTSV形式を指定している。かつ、 3. 出力ファイルのレコード再編成機能を指定している。
4	V5.0L10	PG61364	以下の条件の場合、ソート処理、マージ処理、またはレコード選択処理の結果に誤りがあることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル指定である。かつ、 2. キーフィールド、または選択フィールドのデータ形式がシフトJISコードである。かつ、 3. フィールドの操作にiを指定している。
5	V5.0L10	PG61365	以下の条件の場合、PowerSORTが「bsrtopen関数で指定したBSRTPRIM(keyoption2)に誤りがあります。」という不適切なエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT Server V6.0.0以降では、障害修正の吸収により「レコード全体をキーフィールドとする場合のキーフィールドの操作に誤りがあります。」というエラーメッセージを出力するようになりました。 1. bsortコマンドを使用している。かつ、 2. キーフィールドを指定していない。かつ、 3. テキストファイル指定である。かつ、 キーフィールドの操作に'w'と'N'を同時に指定している。
6	V5.0L10	PG61366	以下の条件の場合、PowerSORTが「オプション(n(key))と(l(key) or w(key))は同時に指定できません。」または「キーオプションの数字の算術的比較と英数字の分割比較は同時に指定できません。」等の不適切なエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT Server

項番	V/L(*1)	P番号	変更内容
			V6.0.0以降では、障害修正の吸収により「レコード全体をキーフィールドとする場合のキーフィールドの操作に誤りがあります。」というエラーメッセージを出力するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. キーフィールドにALLを指定している。かつ、 3. キーフィールドの操作に'n'、'N'、'w'のいずれかを同時に指定している。
7	V5.0L10	PG61377	以下の条件の場合、PowerSORTが出力する「ファイル(※入力ファイル名)からのレコード入力中にエラー(※補足情報)が発生しました。」というエラーメッセージの補足情報が不適切となることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により適切な補足情報を出力するようになりました。 1. 入力ファイルのファイルシステムがシステムの標準ファイルシステムである。かつ、 2. 入力ファイルからのレコード入力中に以下の異常が検出された。 - ー バイナリファイルの場合、ファイルサイズが指定したレコード長の倍数でない。 - ー テキストファイルの場合、指定したレコード長より長いレコードが存在する。 - ー テキストファイル、かつ入力ファイルのコード系がUnicode系(UCS-2形式)の場合、レコード長が奇数であるレコードが存在する。
8	V5.0L10	PG61368	以下の条件の場合、指定されたオプションを無視して動作してしまうことがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、「オプション(-P)の指定に誤りがあります。」というエラーメッセージを出力してエラー終了するようになりました。 1. bsortコマンドを使用している。かつ、 2. 処理定義ファイルオプション(-P)を指定している。かつ、 3. 同時に他のオプションを指定している。
9	V5.0L10	PG61369	以下の条件の場合、PowerSORTが出力するメッセージ内のエラーコードに誤りがあることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しいエラーコードを出力するようになりました。 1. 入力ファイル、または出力ファイルのファイルシステムに富士通COBOLファイルシステムを指定している。かつ、 2. 富士通COBOLファイルシステムで何らかのエラーが発生した。
10	V5.0L10	PG61370	以下の条件の場合、PowerSORTが「An necessary PowerSORT working area cannot be secured.」というエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により「A necessary PowerSORT working area cannot be secured.」というエラーメッセージを出力するようになりました。 1. 英語メッセージが出力される環境でPowerSORTを使用している。かつ、 2. PowerSORTが必要とするメモリが割り当てられない。
11	V5.0L10	PG61372	以下の条件の場合、PowerSORTが「Max output file size is specified with the file system which dose not support it.」というエラーメッセージを出力していましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により「Max output file size is specified with the file system which does not support it.」というエラーメッセージを出力するようになりました。 1. 英語メッセージが出力される環境でPowerSORTを使用している。かつ、 2. 出力ファイルシステムがシステムの標準ファイルシステム以外である。かつ、 3. 出力可能な最大ファイルサイズを指定している。
12	V5.0L10	PG61374	以下の条件の場合、再編成フィールドの指定の誤りが検出できず、PowerSORTが異常なレコードを出力することがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により「再編成フィールド(※誤りのあるフィールド番号)の指定に誤りがあります。」というエラーメッセージを出力してエラー終了するようになりました。

項番	V/L(*1)	P番号	変更内容
			1. テキストファイル指定である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系がUnicode系(UCS-2形式)である。かつ、 3. レコード再編成機能を指定している。かつ、 4. 再編成フィールドの長さが2の倍数でない。または、テキストファイル固定フィールド指定のときに再編成フィールドの位置が2の倍数でない。
13	V5.0L10	PG61375	以下の条件の場合、PowerSORTの出力結果が異常になることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系がUnicode系(UCS-2形式)である。かつ、 3. キーフィールド、選択フィールド、再編成フィールド、または集約フィールドを指定している。
14	V5.0L10	PG61693	以下の条件の場合、指定されたキーフィールドの操作に関する排他エラーが検出できず、動作してしまうことがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により「レコード全体をキーフィールドとする場合のキーフィールドの操作に誤りがあります。」というエラーメッセージを出力してエラー終了するようになりました。 1. BSORT関数を使用したC言語のアプリケーションを作成し実行している。かつ、 2. キーフィールドの指定を省略している。かつ、 3. BSRTPRIM構造体のkeyoptionにBS_CHARNUMを指定している。かつ、 4. BSRTPRIM構造体のkeyoptionにBS_NUMERIC、またはkeyoption2にBS_WCHRを指定している。
15	V5.0L10	PG61694	以下の条件の場合、キーフィールドの操作にBSOPT_LNが指定されたものとして動作していましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. BSORT関数を使用したC言語のアプリケーションを作成し実行している。かつ、 2. キーフィールドの操作にBSOPT_Nを指定している。
16	V5.0L10	PG62207	以下の条件の場合、1つのファイルに出力可能な最大ファイルサイズ、または1つのファイルに出力可能な最大レコード数の指定によるファイルの分割出力機能が正常に動作しないことがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. -outputオプションでmaxfilesizeオペランド、またはmaxrecnumオペランドを指定している。かつ、 3. PowerSORTが用意した出力バッファ内に格納されているレコードを全て出力した時点でファイルの分割を行う条件となった。
17	V5.0L10	PG62208	以下の条件の場合、PowerSORTが出力する「キーフィールド(※誤りのあるフィールド番号)の指定に誤りがあります。」というエラーメッセージ内の“※誤りのあるフィールド番号”に誤りがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しい“※誤りのあるフィールド番号”を出力するようになりました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. 入力ファイルのレコード再編成機能を指定している。かつ、 3. 入力ファイルのレコード再編成機能の指定によりキーフィールドが存在しないレコードとなった。
18	V5.0L10	PG62209	以下の条件のとき、レコードを正常に入力できず、出力結果に誤りがあることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。

項番	V/L(*1)	P番号	変更内容
			1. 入力ファイルが標準入力である。かつ、 2. 入力ファイルのコード系がUnicode UCS-2形式である。
19	V5.0L10	PG62211	以下の条件の場合、1つのファイルに出力可能な最大レコード数の指定によるファイルの分割出力機能が正常に動作しない(maxrecnumオペランドで指定したレコード件数を超えて出力される)ことがある、または「PowerSORTの処理で内部論理の矛盾を検出しました。(qha5term-72)」というエラーメッセージを出力してエラー終了することがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイル指定である。かつ、 3. -outputオプションでmaxrecnumオペランドを指定している。かつ、 4. 入力ファイル内にレコード分離文字だけのレコードが含まれる。
20	V5.0L10	PG61376	以下の条件の場合、出力ファイル(標準出力)の先頭に余分なBOMが出力されることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. マージ機能、またはコピー機能を指定している。かつ、 2. テキストファイルの処理である。かつ、 3. 入力ファイルのコード系がUnicode系(UCS-2形式)、またはUnicode系(UTF-8形式)である。かつ、 4. 出力ファイルが標準出力である。
21	V5.0L10	PG61696	以下の条件の場合、PowerSORTの出力結果が異常になる(集約フィールドが指定した出力形式で出力されない)ことがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. レコード集約機能を指定している。かつ、 3. 集約フィールドの出力形式に'd'を指定している。
22	V5.0L10	PG61697	以下の条件の場合、Unicodeファイルの入力開始時に無条件でBOMの長さ(注)分のデータを読み飛ばしていましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収によりUnicodeファイルの先頭にBOMが存在するときだけ読み飛ばすようになりました。また、環境変数BSORT_UNICODEBOMの指定により、BOMを読み飛ばさなくすることも可能です。 1. マージ機能、またはコピー機能を指定している。かつ、 2. テキストファイル指定である。かつ、 3. 入力ファイルのコード系がUnicode(UCS-2形式、またはUTF-8形式)である。かつ、 4. 入力ファイルが標準入力である。 注) Unicode系(UCS-2形式)の場合は2バイト、Unicode系(UTF-8形式)の場合は3バイト。
23	V5.0L10	PG62212	以下の条件の場合、PowerSORTのレコード集約処理の結果に誤りがあることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. マージ機能を指定している。かつ、 3. レコード集約機能を指定している。かつ、 4. 集約フィールドの出力形式を指定している。かつ、 5. -summaryオプションでfirstオペランドを指定している。

項番	V/L(*1)	P番号	変更内容
24	V5.0L10	PG62213	以下の条件の場合、PowerSORTが「集約フィールド(※異常が検出されたフィールド番号)の内部に不適切なコードが発見されたため、集約処理を中断します。」という警告メッセージを出力してレコード集約処理が中断されていましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. テキストファイル浮動フィールド指定である。かつ、 2. レコード集約機能を指定している。かつ、 3. 集約フィールドの出力形式を指定している。かつ、 4. 集約処理の対象とならないレコードの集約フィールド内に空白、またはタブが存在する。
25	V5.0L10	PG65143	以下の条件の場合、bsortexコマンドの終了コードが0になることがありましたが、PowerSORT V6.0.0以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. マージ機能を指定している。かつ、 3. 出力処理で何らかのエラーが発生した(注)。 注) 発生したエラーに対応したエラーメッセージは出力されます。

*1) V/Lは障害が存在する範囲を示します。

*2) PowerSORT V6.0.0Aは、NetCOBOL Enterprise Edition V10.2.0およびV10.3.0に同梱されています。

2.6 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.7 FORM

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ



参考

ここで記載する情報は、Windows(x86)版 FORM製品からの互換情報も含んでいます。

Windows(x64)版 NetCOBOLシリーズに含まれるFORMのバージョン・レベルは、“[表A.1 NetCOBOLシリーズのバージョン・レベルとコンポーネントのバージョン・レベル対応表](#)”を参照してください。

2.7.1 項目ディクショナリ連携の非サポートについて

変更内容

FORM V11.0 以降、項目ディクショナリ連携はサポート対象外となります。

2.7.2 文字ピッチの初期値について

変更内容

V7.2L10 以降、PowerFORM において文字ピッチ指定の初期値を「ピッチ指定なし」から「ピッチ指定あり」に変更しました。

対処方法

V7.0L10 以前と同じ動作にするには、メニュー[ツール] - [初期値] - [項目] の「フォント」タブで「ピッチ」をオフにしてください。

2.7.3 マウскарソル形状について

変更内容

V9.0L10 以降、PowerFORM の編集画面において、選択可能なオブジェクト上にマウскарソルを位置付けた場合のカーソル形状を、矢印から十字へ変更しました。

2.7.4 オーバレイ文字の配置方法の初期値について

変更内容

V8.0L10 以降、PowerFORM でオーバーレイ定義体を新規作成する場合において、オーバーレイ文字の配置方法の初期値を「指定なし」から「両端揃え」へ変更しました。

対処方法

V7.2L10 以前と同じ動作にするには、メニュー[ツール] - [初期値] - [オーバーレイ文字] の「文字配置」タブで「配置方法」を「指定なし」にしてください。

2.7.5 オーバレイ文字の文字間隔自動調整について

変更内容

V8.0L10 以降、PowerFORM において、マウス操作でオーバーレイ文字列幅を拡大／縮小する際に、指定範囲で文字が両端揃えになるように文字間隔を自動調整するように変更しました。

対処方法

V7.2L10 以前と同じ動作にするには、メニュー[ツール] - [オプション] の「オーバーレイ」タブで「拡大縮小での文字配置を両端揃えにする」をオフにしてください。

2.7.6 オーバレイ文字の文字列方向の指定について

変更内容

V8.0L10 以降、PowerFORM においてオーバーレイ文字の文字列方向および縦書きの指定方法を変更しました。

対処方法

V8.0L10 以降で文字列方向および縦書きを変更する場合は、オーバーレイ文字のプロパティの「文字の向き」タブで変更してください。

2.7.7 オーバレイ文字の拡大/縮小について

変更内容

V8.0L10 以降、PowerFORM においてマウス操作でオーバーレイ文字を拡大／縮小する場合、フォントサイズは変更せずに文字列幅だけを変更するようにしました。

対処方法

V7.2L10 以前と同じ動作にするには、メニュー[書式]－[フォントサイズ固定]を選択してオフに切り替えてください。

2.7.8 クライアント環境設定ツールについて

変更内容

サーバマシン内の共用フォルダに格納したFORM 製品を、クライアントマシンから共用して使用するためのクライアント環境設定ツールは、V10.0.0 以降は提供されません。

対処方法

Windowsのターミナルサービスなどリモート操作機能を利用してください。

2.7.9 アクセス関数変更コマンド(INSTSMD.EXE)について

変更内容

画面帳票定義体の15 版までを他ツールで利用できるようにするためのコマンド(INSTSMD.EXE)は、V10.0.0 以降は提供されません。

2.7.10 オーバレイパターンテーブル変換コマンドについて

変更内容

FORM オーバレイオプション V1.2 以前で作成したオーバーレイパターンの標準色の扱いを変更するためのコマンド(OVDCONV.exe)は、V10.0.0 以降は提供されません。

2.7.11 障害修正に関する互換情報について

ここでは、FORMについて、V6.0L10 以降で実施された障害修正により動作が変わるものを以下に説明します。

表2.5 FORMの障害修正に関する互換情報

項番	VL(注)	P番号	変更内容
1	V4.0L10 ～ V7.2L10	PG39420	以下の条件のとき、項目名に2バイト文字「ハイフン(-)」を指定できない問題を修正しました。 1. PowerFORM を起動する。かつ、 2. 任意の項目を定義し、プロパティ画面を開くかつ、 3. 2 バイト文字「ハイフン(-)」を含む項目名を指定する。かつ、 4. OK ボタンを押下した場合。 または、 1. PowerFORM を起動する。かつ、 2. ツールメニューの初期値＞項目を選択し、項目の初期値画面を表示する。かつ、 3. 自動生成名タブを表示し、項目名の初期値に2 バイト文字「ハイフン(-)」を含む項目名を指定する。かつ、 4. OK ボタンを押下した場合。

項番	VL(注)	P番号	変更内容
			以下の条件のとき、命名規約に違反する「水平線(—)」、ギリシャ文字、キリル文字、ユーザ定義文字、JIS 第3 水準文字を項目名に指定できてしまう問題を修正しました。 1. PowerFORM を起動する。かつ、 2. 任意の項目を定義し、プロパティ画面を開く。かつ、 3. 「水平線(—)」、ギリシャ文字、キリル文字、ユーザ定義文字、またはJIS 第3 水準文字を含む項目名を指定する。かつ、 4. OK ボタンを押下した場合。 または、 1. PowerFORM を起動する。かつ、 2. ツールメニューの初期値 > 項目を選択し、項目の初期値画面を表示する。かつ、 3. 自動生成名タブを表示し、項目名の初期値に「水平線(—)」、ギリシャ文字、キリル文字、ユーザ定義文字、またはJIS 第3 水準文字を含む項目名を指定する。かつ、 4. OK ボタンを押下した場合。

2.8 MeFt/Web

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

2.8.1 IIS 環境設定コマンドについて

変更内容

V10.5.0以降、IIS 環境設定コマンドにおいて、「リモート実行の環境を設定する」を指定した場合、作成されるアプリケーションプール「MeFtWeb」の「ワーカプロセスのリサイクル(分ごと)」がオフになるよう変更されています。

第3章 プログラム修正一覧

ここでは、本バージョン・レベルで修正された障害修正の情報を説明します。

3.1 NetCOBOL開発環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ

表3.1 NetCOBOL開発環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG76651	以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時に、長さの異なる日本語項目（日本語編集項目、組込み関数を含む）同士の大小比較の結果が正しくないことがあります。 1. 翻訳オプションRSC(UCS2,LE)またはRSC(UTF16,LE)を指定している。かつ、 2. 日本語項目と、日本語項目または日本語文字定数の大小比較である。かつ、 3. 少なくとも一方が部分参照された項目またはANY LENGTH句の指定がある項目である。かつ、 4. 比較対象の長さが異なる場合。
2	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG85966	以下の条件の場合、誤ったデバッグ情報ファイルが出力され、正しくデバッグすることができません。 1. 翻訳オプションTESTを指定してCOBOLプログラムを翻訳している。かつ、 2. 原文名定数が指定されたCOPY文を記述している。かつ、 3. 2.で取り込まれた登録集(*1)に原文名が指定されたCOPY文を記述している。かつ、 4. コンパイラが異常終了した場合(*2)。 *1：登録集が入れ子になっている場合は、最後の階層に至るまでのいずれかの登録集 *2：通常時のコンパイラが出力する翻訳時メッセージが出力されず、「0～3」以外の復帰コードが返却されます
3	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG86728	以下の条件の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、COBOLコンパイラが以下の不当な翻訳時メッセージを出力して、翻訳できなくなる場合があります。 「JMN5546I-S メソッド'mmmmm'のインタフェースは、再定義されるメソッドのインタフェースに適合していなければなりません。メソッド'mmmmm'は無効になります。」 1. OVERRIDE指定のメソッド定義がある。かつ、 2. 1.のメソッドと親クラスに定義された同名のメソッドのUSINGパラメタまたはRETURNINGパラメタが以下の場合 a. メソッドのパラメタの一方が集団項目、もう一方は集団項目または英数字項目。かつ、 b. パラメタのサイズが一致する。
4	V10.1.0 ～	PG88107	以下の条件の場合、int型2進整数項目を使用したCOBOLプログラムの翻訳時に、コンパイラが以下のメッセージを出力して異常終了します。

項番	V/L(注)	P番号	現象
	V10.5.0		「JMN0102I-U 翻訳処理が続行不可能となりました。他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。(区名=JMN300, モジュール名=SC30MKTT, 詳細コード=3209, 行情報=nnn.)」 以下のいずれかの文を記述している場合に発生します。 ・ 小数部のみの数字項目をint型2進整数項目へ転記する文 ・ 小数部のみの演算結果をint型2進整数項目へ受け取る算術文
5	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG88615	以下の条件の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、COBOLコンパイラが不当なJMN1477I-Iのメッセージを出力する場合があります。 1. 特殊名段落(SPECIAL-NAMES)を宣言している。かつ、 2. 特殊名段落に重大コードSのコーディング誤りがある場合。 補足) メモリの状態に依存するため、発生条件を満たしても現象が発生しない場合があります。
6	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG88616	以下の[条件1]または[条件2]の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、COBOLコンパイラが以下の例のような不当なメッセージを出力する場合があります。 例) JMN1019I-W line-no 標識領域は'-', '*', '/', 'D' または空白でなければなりません。空白とみなします。 JMN1123I-S line-no 許されない語'nnn' が現れました。次の認識できる句、段落、節または部まで無効になります。 JMN1255I-S line-no 01レベル項目の指定なしに02～49レベル項目が指定されています。01レベル項目とみなします。 JMN1356I-W line-no 見出し部中に誤った語'nnn' が指定されています。次の段落または部まで無効になります。 line-no: 行番号 nnn : 数字 ※ 上記のメッセージは一例です。他のメッセージの場合もあります。 [条件1] 1. Oracle Pro*COBOLのprecobコマンドを使用して、埋込みSQL文を含むCOBOLプログラムをプリコンパイルしている。かつ、 2. INSDBINFコマンドを使用して、1.のPro*COBOLプログラムからCOBOLプログラムを生成している。かつ、 3. 翻訳オプション"NUMBER"を指定して、2.で生成したCOBOLプログラムを翻訳した場合。 または、 [条件2] 1. Symfowareのsqlpcobコマンドにオプション"-g"を指定して、埋込みSQL文を含むCOBOLプログラムをプリコンパイルしている。かつ、 2. 翻訳オプション"NUMBER"を指定して、1.で生成したCOBOLプログラムを翻訳した場合。
7	V10.1.0 ～	PG89665	以下の条件の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、以下の不当な翻訳時メッセージが出力され、COBOLプログラムが翻訳できません。

項番	V/L(注)	P番号	現象
	V10.5.0		「JMN2206I-S KEY IS句のデータ名'xxxxx'は、アドレス可変項目であってはなりません。」 - OCCURS句のKEY IS指定を記述している。かつ、 1.に指定したデータ名がレコードの中の可変位置にある場合。
8	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG81806	以下の条件の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、COBOLコンパイラが異常終了することがあります。 - 次のいずれかの文を記述している。かつ、 - CALL文 - CANCEL文 - INVOKE文 - CSV-FORMATが指定されたSTRING文/UNSTRING文 1.の文が条件文の中に記述されている。かつ、 2.の条件文の階層(*1)が180以上である場合。 *1:階層とは、例えば次のような場合(階層が2)を表します。 <pre> EVALUATE ~ WHEN ~ COMPUTE ~ ON SIZE ERROR CALL ~ END-COMPUTE END-EVALUATE </pre> 階層2 階層1 [補足]翻訳時のメモリの状態に依存するため、条件に一致しても異常終了しないことがあります。
9	V10.2.0 ～ V10.5.0	PG88994	以下の条件の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、COBOLコンパイラが異常終了(*)する場合があります。 (*)異常終了時に特定のメッセージは出力されません。 - アークバインドの特殊クラスを指定している。かつ、 1.のクラスのメソッドを行内呼び出しで呼び出している場合
10	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG97116	以下の条件の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、コンパイラが以下のメッセージを出力して異常終了します。 翻訳処理が続行不可能となりました。他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。(区名=JMNRL, モジュール名=SABEMAC, 詳細コード=6202, 行情報=nnn。) - 翻訳オプションBINARY(BYTE)を指定している。かつ、 - 数字を引数とするMAX関数またはMIN関数を記述している。かつ、 2.の関数の引数が3個以内である。かつ、 2.の引数に2進項目を指定している。かつ、 4.の2進項目の領域長が1,3,5,6,7バイトのいずれかである(*1)。かつ、

項番	V/L(注)	P番号	現象																					
			6. 2.の関数値が格納される一時的なデータ項目の桁数(*2)が19以上30以下である。かつ、 7. 2.の引数に定数を指定していない。かつ、 8. 2.の引数に浮動小数点項目を指定していない。かつ、 9. 2.の引数にALLを添字とする項目を指定していない。 *1:以下の2進項目が該当します。 <table><tr><th colspan="2">桁数</th><th>割り当てられる領域長</th></tr><tr><th>符号付き</th><th>符号なし</th><th></th></tr><tr><td>1 ~ 2</td><td>1 ~ 2</td><td>1</td></tr><tr><td>5 ~ 6</td><td>5 ~ 7</td><td>3</td></tr><tr><td>10 ~ 11</td><td>10 ~ 12</td><td>5</td></tr><tr><td>12 ~ 14</td><td>13 ~ 14</td><td>6</td></tr><tr><td>15 ~ 16</td><td>15 ~ 16</td><td>7</td></tr></table> *2:関数値が格納される一時的なデータ項目は以下の桁数となります。 整数部桁＝全引数の整数部桁数のうち最大の値 小数部桁数＝全引数の小数部桁数のうち最大の値	桁数		割り当てられる領域長	符号付き	符号なし		1 ~ 2	1 ~ 2	1	5 ~ 6	5 ~ 7	3	10 ~ 11	10 ~ 12	5	12 ~ 14	13 ~ 14	6	15 ~ 16	15 ~ 16	7
桁数		割り当てられる領域長																						
符号付き	符号なし																							
1 ~ 2	1 ~ 2	1																						
5 ~ 6	5 ~ 7	3																						
10 ~ 11	10 ~ 12	5																						
12 ~ 14	13 ~ 14	6																						
15 ~ 16	15 ~ 16	7																						
11	V10.1.0 ～ V11.0.0	PG98742	以下の[条件1]または[条件2]を満たす場合、COBOLプログラムの実行時に正しく動作しない、または、COBOLプログラムの翻訳時にコンパイラが異常終了する場合があります。 [条件1]:作業場所節、局所記憶節(*1)、定数節のいずれかにデータ項目を宣言した場合 1. TYPE句を指定した項目を従属するレベル番号01の集団項目を定義している。かつ、 2. 1.の集団項目にREDEFINES句を指定している。かつ、 3. 1.のデータ項目の長さが、2.で再定義されるデータ項目の長さより短い場合。 [条件2]:ファイル節にデータ項目を宣言した場合 1. TYPE句を含むレコード記述項を定義している。かつ、 2. 同じファイル記述項に1.のレコード記述項とは別のレコード記述項を定義している。(*2)かつ、 3. 1.のレコード記述項の長さが、2.のレコード記述項の長さよりも短い場合。 *1: 局所記憶節は、NetCOBOL V11以降の機能です。 *2: ファイル節で同じファイル記述項にレコード記述項を2つ以上書くと、レコード記述項の領域が暗に再定義されます。 例1) 作業場所節、局所記憶節、定数節のいずれかにデータ項目を宣言した場合 <table><tr><td>01 D1 PIC X(20).</td><td>*> SIZE 20 BYTE</td><td>D2よりD1が長い。</td></tr><tr><td>01 D2 REDEFINES D1.</td><td>*> SIZE 8 BYTE</td><td></td></tr><tr><td>02 D21 TYPE T1.</td><td>*> SIZE 8 BYTE</td><td></td></tr></table>	01 D1 PIC X(20).	*> SIZE 20 BYTE	D2よりD1が長い。	01 D2 REDEFINES D1.	*> SIZE 8 BYTE		02 D21 TYPE T1.	*> SIZE 8 BYTE													
01 D1 PIC X(20).	*> SIZE 20 BYTE	D2よりD1が長い。																						
01 D2 REDEFINES D1.	*> SIZE 8 BYTE																							
02 D21 TYPE T1.	*> SIZE 8 BYTE																							

項番	V/L(注)	P番号	現象
			01 T1 TYPEDEF. 02 TD1 PIC X(8). *> SIZE 8 BYTE 例2) ファイル節にデータ項目を宣言した場合 FD FILE1. 01 R1 PIC X(20). *> SIZE 20 BYTE R2よりR1が長い 01 R2 TYPE T2. *> SIZE 8 BYTE 暗に再定義され、R1とR2は同じ領域に割り付く 01 T2 TYPEDEF. 02 TD2 PIC X(8). *> SIZE 8 BYTE
12	V11.0.0	PG99026	以下の[条件1]または[条件2]を満たす場合、COBOLプログラムの実行時に、指標名の値が正しくないことがあります。 [条件1] 1. プログラムに局所記憶節を記述している。かつ、 2. 基底場所節、ファイル節、作業場所節のいずれか一か所または複数の箇所に指標名を記述した項目を宣言している。かつ、 3. 定数節および連絡節の両方を宣言していない。かつ、 4. 1.のプログラムが2回以上呼び出された場合。 [条件2] 1. プログラムの局所記憶節に指標名を記述した項目を宣言している。かつ、 2. 定数節および連絡節のどちらか片方または両方を宣言している。かつ、 3. 1.のプログラムが再帰的に呼び出された場合。
13	V10.1.0 ～ V11.0.0	PG99190	以下の条件の場合、COBOLプログラムの翻訳時に、コンパイラが以下のメッセージを出力して異常終了する場合があります。 JMN0124I-U ソースファイル内に不当な文字があります。(区名=JMNAL0, 行情報=0.) 翻訳を中止します。 1. 翻 訳 オ プ シ ョ ン RCS(UTF16), ENCODE(UTF8,UTF16) または ENCODE(UTF8,UTF32)を指定している。かつ、 2. 翻訳オプションCHECK(PRM),CHECK(ALL)またはSAIを指定している。かつ、 3. ソースプログラムのコード系がSJISである。かつ、 4. CALL文またはINVOKE文のUSING BY CONTENT指定に文字定数(日本語文字定数は除く)を指定している。かつ、 5. 4.の文字定数が日本語文字を含む場合。 [補足] ・ 日本語文字とは、日本語の文字そのものを示します。 例) あいうえお ・ 日本語文字定数とは、定数の値を計算機文字集合の日本語文字で表現する定数です。 例) NC"あいうえお" ・ 発生条件5.に示す「文字定数が日本語文字を含む」とは以下のような場合です。 例) "あいうえお"

項番	V/L(注)	P番号	現象
14	V10.1.0 ～ V11.0.0	PH00163	以下の条件の場合、cobmkmfコマンドが異常終了する場合があります。 [発生条件] 1. cobmkmfコマンドのオペランドにCOBFLAGSマクロを指定する。かつ、 2. COBFLAGSマクロの定義値で指定する翻訳コマンドオプションの値に空白を含めた場合。
15	V10.2.0 ～ V11.0.0	PH00165	以下の[条件1]または[条件2]の場合、NetCOBOL Studioの依存解析を実行すると、NetCOBOL Studioが異常終了することがあります。 [条件1] 1. 異なるプロジェクト間で、ファイルをドラッグ&ドロップで移動またはコピーしたときに、ドロップ先ファイルのフルパスの文字列の長さが260より大きい場合。 [条件2] 1. COBOLソースの正書法が可変形式の場合。かつ、 2. 依存ビューのコンテキストメニューから、依存関係の解析を実行する。 または、プロジェクトをインポートする。かつ、 3. 以下の条件のCOBOLソースファイルを記述している場合。 3-1) COPY文が以下の何れかの条件の場合。 a-1) COPY文で原文名を指定している。かつ a-2) COB_LIBSUFFIX環境変数の定義がない、または COB_LIBSUFFIX環境変数の値が"None"の場合。かつ、 a-3) 原文名の文字列の長さが256より大きい場合。 または、 b-1) COPY文で原文名を指定している。かつ b-2) COB_LIBSUFFIX環境変数の値が"None"以外の場合。かつ、 b-3) 原文名の長さ+COB_LIBSUFFIX環境変数の設定値の長さが、259より大きい場合。 または、 c-1) COPY文で原文名を指定している。かつ、 c-2) COPY文のINまたはOF指定によって登録集名が指定されていない。かつ、 c-3) LIB翻訳オプションが指定されている。かつ、 c-4) 原文名の文字列の長さが255より大きい場合。 または、 d-1) COPY文で原文名定数を指定している。かつ、 d-2) 原文名定数の文字列の長さが260より大きい場合。 または、 e-1) COPY文で登録集原文にXMDLIBまたはXFDLIBを指定している。かつ、 e-2) 原文名の文字列の長さが256より大きい場合。 または、 f-1) COPY文で原文名を指定している。かつ、 f-2) COPY文のINまたはOF指定によって登録集名を指定している。かつ、 f-3) 環境変数COB_LIBSUFFIXの値に"None"以外を指定している。かつ、 f-4) 原文名の文字列の長さが260より大きい場合。 または、 3-2) クラス名段落のクラス名の長さが256より大きい場合。または、 3-3) リポジトリ段落のクラス指定子のクラス名の長さが256より大きい場合。
16	V10.2.0 ～ V11.0.0	PH01938	以下の条件の場合、NetCOBOL Studioからサーバに送信したCOBOLソースファイル内の一部の文字が'?'に変換されることがあります。 [環境]

項番	V/L(注)	P番号	現象
			リモート開発の対象サーバのOSがWindows(x64)の場合。 [条件] 1. NetCOBOL Studioで作成したCOBOLプロジェクトのテキストファイルエンコードにMS932を指定している。かつ、 2. NetCOBOL Studioのリモート開発設定ダイアログで、サーバ側COBOLソースのコード系にShiftJISを指定したサーバ名を定義している。かつ、 3. COBOLプロジェクトのリモート開発のサーバ名に、2)で定義したサーバ名を指定している。かつ、 4. COBOLソースファイル内に以下の文字が含まれている。かつ、 — “～” 0x8160(シフトJIS)(WAVE DASH) — “//” 0x8161(シフトJIS)(DOUBLE VERTICAL LINE) — “-” 0x817C(シフトJIS)(MINUS SIGN) — “¢” 0x8191(シフトJIS)(CENT SIGN) — “£” 0x8192(シフトJIS)(POUND SIGN) — “¬” 0x81CA(シフトJIS)(NOT SIGN) — “ ” 0xFA55(シフトJIS)(FULLWIDTH BROKEN BAR) 5. NetCOBOL Studioの以下の何れかのリモート開発機能を使用してサーバにCOBOLソースファイルを送信した場合。 — メイクファイル生成 — ビルド — 再ビルド
17	V10.2.0 ～ V11.0.0	PH03188	NetCOBOL StudioまたはInterstage Studioにおいて、以下の条件の場合、COBOLプロジェクト内のファイルパスが文字化けします。これにより、[現象1]または[現象2]が発生することがあります。 [現象1] ソースファイルフォルダに登録しているソースファイルのパス文字列が文字化けした場合、そのソースファイルが翻訳対象にならずにビルドがスキップされる。 [現象2] コンパイラやリンカが、参照するファイルを見つけることができずにビルドエラーとなる。たとえばLIB翻訳オプションに指定したパス文字列が文字化けした場合は、登録集を読み込むことができないため以下のエラーが発生する。 JMN1057I-S COBOL登録集で入出力エラーが発生しました。登録集原文の組込みを中止します。 [条件] 1. COBOLプロジェクトの設定に指定するファイルまたはフォルダパスに、ASCIIコード以外の文字を使用している。かつ、 2. 1.のCOBOLプロジェクトをワークスペースにインポートした場合。
18	V11.0.0 ～ V11.0.0A	PH03777	以下の発生条件のとき、COBOLプログラム翻訳時に異常終了する場合があります。 [発生条件] 1. 以下のいずれかの項目を定義している。かつ、 — 英数字編集項目

項番	V/L(注)	P番号	現象
			- ー 日本語編集項目 2. 1.の項目のPICTURE句の文字列を46文字以上(*1)記述している。かつ、 3. 1.の項目を以下のいずれかの転記の受け取り側に指定している場合。 - ー MOVE文 - ー 暗黙のMOVE文が実行される文 (*1) ここではPICTURE句に記述された文字の数を意味します。 (例) 下記二つはどちらも同じ形式ですが、文字の数は異なります。 PIC XBXXXXXXXX = 10文字 PIC XBX(8) = 6文字
19	V10.2.0 ～ V11.0.0	PH04722	以下の条件の場合、NetCOBOL Studioの[問題]ビューに以下のエラーメッセージが表示されて、COBOLプロジェクトのビルドが失敗する場合があります。 「Target “cobol_buildtool-clean” does not exist in the project “XXX”. It is used from target “clean_build”。」 (XXXはCOBOLプロジェクトのプロジェクト名を示します。) 1. COBOLプロジェクトのターゲット種別を、ダイナミックリンクライブラリに指定した場合。かつ、 2. 1.のCOBOLプロジェクトを、ワークスペースにインポートした場合。かつ、 3. [ナビゲータ]ビューのコンテキストメニューの[名前変更]において、2.のCOBOLプロジェクトのプロジェクト名を変更した場合。
20	V10.1.0 ～ V11.0.0A	PH05538	以下の[条件1]～[条件3]のいずれかを満たす場合、COBOLプログラムの実行時、基底場所節に宣言したデータ項目を使用する文で、異常終了(ACCESS VIOLATION)または結果誤りが発生する場合があります。 [条件1] 1. 基底場所節に宣言したデータ項目を以下のいずれかの方法で使用している。 - かつ、 1-1) 変数で添字付けしている。または、 1-2) 最左端文字位置に変数を指定した部分参照をしている。 2. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。(*) *:デフォルトはNOOPTIMIZEです。 [条件2] 1. 基底場所節に宣言したデータ項目を、以下のいずれかの文に指定している。 - ー INSPECT文 - ー STRING文(中核) - ー UNSTRING文(中核) [条件3] 1. 基底場所節にOCCURS句を指定したデータ項目を宣言している。かつ、 2. 1.のデータ項目をINITIALIZE文に指定している。

項番	V/L(注)	P番号	現象
21	V10.1.0 ～ V11.0.0A	PH05861	以下の条件の場合、COBOLプログラムの実行時、部分参照した外部10進項目から数字編集項目または浮動小数点項目への転記において、送し側を部分参照する範囲が1桁左にずれる誤りが発生します。 1. 送し側が符号付き外部10進項目、受取り側が数字編集項目または浮動小数点項目のMOVE文を記述している(*1)。かつ、 2. 送し側項目のSIGN句にSEPARATE CHARACTER指定(*2)がある。かつ、 3. 送し側項目を部分参照している。かつ、 4. 3.の部分参照の長さを定数で指定している場合。 *1: 暗黙のMOVE文を含む。 *2: TRAILING SEPARATE指定
22	V10.2.0 ～ V11.0.0	PH07796	以下の条件の場合、デバッグ時のCOBOLエディタ上でデータ項目の値がツールチップで表示されません。 1. NetCOBOL StudioのCOBOLエディタの正書法を固定形式に設定している。かつ、 2. デバッグ機能のブレークポイントでCOBOLプログラムの実行が中断している。かつ、 3. COBOLエディタでデータ項目をマウスカーソルでポイントした場合。

注: V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.2 NetCOBOL運用環境

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Base Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Base Edition サーバ運用パッケージ

表3.2 NetCOBOL運用環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG76651	以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時に、長さの異なる日本語項目（日本語編集項目、組込み関数を含む）同士の大小比較の結果が正しくないことがあります。 1. 翻訳オプションRSC(UCS2,LE)またはRSC(UTF16,LE)を指定している。かつ、 2. 日本語項目と、日本語項目または日本語文字定数の大小比較である。かつ、 3. 少なくとも一方が部分参照された項目またはANY LENGTH句の指定がある項目である。かつ、 4. 比較対象の長さが異なる場合。 注: V11.0以降のNetCOBOLコンパイラで翻訳した場合のみ修正されます。
2	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG88590	以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時、SORT文の実行で無限ループが発生する場合があります。 1. PowerSORTをインストールしていない環境である。かつ、

項番	V/L(注)	P番号	現象
			2. 整列併合の対象ファイルのレコード長が21477から21484バイトである。かつ、 3. 2.のファイルに対して、SORT文またはMERGE文を実行した場合。
3	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG91976	以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時に、OPEN文の実行でアクセス違反例外(EXCEPTION_ACCESS_VIOLATION)で異常終了する場合があります。(注) 注: 発生頻度は、メモリの状態に依存します。 1. 下記のいずれかのファイル編成である。かつ、 a. 行順ファイル、または、 b. FORMAT句なし印刷ファイル 2. 1.のファイル管理記述項のASSIGN句にファイル識別名を指定している。かつ、 3. 2.のファイル識別名に対してファイルが割り当てられていない。かつ、 4. 1.のファイルに対してOPEN文を実行した場合。
4	V10.3.0 ～ V10.5.0	PG93367	以下の条件の場合、Javaクライアントにエラー通知されない場合があります。 1. Migration CJC for INTARFRM連携機能を使用している。かつ、 2. Javaクライアントでサーバアプリケーションの応答を待っている。かつ、 3. 通信エラーが発生した場合。
5	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG96520	以下の条件の場合、COBOLプログラム実行時、トレース情報のファイルに出力される実行時メッセージが、トレース情報ファイル以外のファイル(ソケットを含む)に出力される場合があります。 1. TRACE機能を使用している。かつ、 2. 複数のプロセスが同じトレース情報のファイル名を指定している場合。
6	V10.1.0 ～ V10.5.0	PG97090	以下の条件のとき、COBOLプログラム実行時、NATIONAL-OF関数で変換した文字に対応する日本語文字がなかった場合、引数-2に指定した代用文字に正しく置き換わりません。 1. 翻訳オプションRCS(UTF16,BE)を指定して翻訳したプログラムである。かつ、 2. NATIONAL-OF関数を使用している。かつ、 3. 2.の関数に引数-2を指定している。かつ、 4. 2.の関数に指定した引数-1に英数字文字ではないデータが指定され、内部的にコード変換エラー(対応する日本語文字がない)が発生した場合。
7	V11.0.0	PH00258	以下の条件の場合、Unicodeアプリケーションの実行時に、可変長の日本語項目と表意定数との文字比較が正しく行われない場合があります。 具体的には、COBOLプログラムのIF文等で文字比較を行ったとき、等しくないにも関わらず、等しいと誤って判定されることがあります。 1. NetCOBOL V11.0の開発環境で翻訳されたプログラムを実行している。かつ、 2. 次に示す翻訳オプションを指定して翻訳し、Unicodeアプリケーションを作成している。かつ、 ー RCS(UCS2)またはRCS(UCS2,LE) ー RCS(UTF16)またはRCS(UTF16,LE) ー ENCODE(UTF8) ー ENCODE(UTF8,UTF16) または ENCODE(UTF8,UTF16,LE) または ENCODE(UTF8,UTF16,BE)

項番	V/L(注)	P番号	現象
			— ENCODE(UTF8,UTF32) または ENCODE(UTF8,UTF32,LE) または ENCODE(UTF8,UTF32,BE) [補足]RCSオプションの省略値はRCS(SJIS)、ENCODEオプションの省略値はENCODE(SJIS,SJIS)です。 3. 日本語項目(日本語編集項目または関数の型が日本語となる組込み関数を含む)と表意定数(ALL定数またはSPACE)の文字比較である。かつ、 4. 3.の日本語項目が次のいずれかの指定により可変長である。かつ、 — 部分参照子の長さにデータ名を指定している — 部分参照子の最左端文字位置にデータ名を指定し、長さを省略している — ANY LENGTH句を指定している [補足] 関数の型が日本語となる組込み関数にはANY LENGTH句は指定できません。 5. 比較対象の日本語項目のエンディアンがリトルエンディアンである(注)。かつ、 6. 日本語1文字毎の下位1バイト(リトルエンディアン表現では先頭1バイト)以外は等しい文字同士である。かつ、 7. 6.の下位1バイト(リトルエンディアン表現では先頭1バイト)が異なる文字を比較した場合。 (注)エンディアンがリトルエンディアンになる条件は、以下のいずれかの場合。 - 次に示す翻訳オプションを指定して翻訳している場合。 — RCS(UCS2) — RCS(UCS2,LE) — RCS(UTF16) — RCS(UTF16,LE) - 次に示す翻訳オプションを指定して翻訳したプログラムで、日本語項目にENCODING句を指定していない場合。 — ENCODE(UTF8) — ENCODE(UTF8,UTF16) — ENCODE(UTF8,UTF16,LE) — ENCODE(UTF8,UTF32) — ENCODE(UTF8,UTF32,LE) - ALPHABET句で次に示すエンコード方式が関連づけられた符号系名を日本語項目のENCODING句に指定している場合。 — UTF16 — UTF16LE — UTF32 — UTF32LE [可変長のコーディング例]

項番	V/L(注)	P番号	現象
			DATA DIVISION. WORKING-STORAGE SECTION. 01 NDATA PIC N(100) VALUE NG"富士通ふじつう". 01 LEN PIC 9(3) VALUE 10. 01 COUNTER PIC 9(3). PROCEDURE DIVISION. MOVE 4 TO COUNTER. IF NDATA(4:10) = SPACE ~ <---- OK(固定長) IF NDATA(4:) = SPACE ~ <---- OK(固定長) IF NDATA(4:LEN) = SPACE ~ <---- NG(可変長) ★★ IF NDATA(COUNTER:10) = SPACE ~ <---- OK(固定長) IF NDATA(COUNTER:) = SPACE ~ <---- NG(可変長) ★★ IF NDATA(COUNTER:LEN) = SPACE ~ <---- NG(可変長) ★★
8	V10.1.0 ～ V11.0.0	PH01026	以下の発生条件の場合、COBOLプログラムの実行時に、日本語空白を2バイトのANK空白と見なした文字比較が正しく判定されないことがあります。 1. 翻訳オプションNSPCOMP(ASP)を指定して翻訳したプログラムを実行している。かつ、 2. 次のいずれかの指定により、データ項目のエンコードがシフトJISである。かつ、 － 翻訳オプションRCS省略時、または 翻訳オプションRCS(SJIS)指定時、または 翻訳オプションENCODE(SJIS,SJIS)指定時 3. 次のいずれかの文字比較を行っている。かつ、 － 日本語項目を作用対象とする日本語文字比較 － 集団項目を作用対象とする文字比較 ただし、次に示す条件を除く。 - 日本語項目を含まない集団項目同士の比較 - 明または暗に属性が表示用でない項目を含む集団項目の比較 4. 3.の文字比較で比較対象の文字が次の文字コードの範囲である。かつ、 － X"8181"～X"819F" － X"81E0"～X"81FC" 5. 比較対象のどちらか一方は、4)の文字位置の次の文字が日本語空白(X"8140")である。かつ、 6. 5.の他方が次のいずれかである場合。 － 5.の日本語空白と同じ文字位置に2バイトのANK空白(X"2020")がある。 － 4.の文字位置がデータ項目の末尾である。
9	V11.0.0	PH03200	以下の条件の場合、COBOLプログラムの実行時に、索引キー項目の大小順序どおりにレコードが書き出されません。 派生する現象として、意図したレコードが読み込まれない場合があります。 1. 翻訳オプションENCODE(SJIS,SJIS)を指定して翻訳したプログラムを実行している。かつ、 2. 主レコードキー、または副レコードキーの項目属性が日本語項目である。かつ、 3. WRITE文を実行した場合。

項番	V/L(注)	P番号	現象
10	V10.1.0 ～ V11.0.0A	PH08330	以下の条件のとき、スクリーン機能のDISPLAY文またはACCEPT文実行時に、アクセス違反例外(EXCEPTION_ACCESS_VIOLATION)で異常終了する場合があります。(注) 注:発生頻度は、メモリの状態に依存します。 1. Micro Focus固有機能のDISPLAY文またはACCEPT文を使用している。かつ、 2. 1.のDISPLAY文またはACCEPT文に添え字付けされたデータ項目を指定している場合。
11	V11.0.0 ～ V11.0.0A	PG99231	以下の条件のとき、COBOLファイルアクセスルーチンの実行で以下のエラーが発生し、ファイルのオープンに失敗します。 ・ エラー番号:FA_EBADFILE(105) ・ 入出力状態:90 [条件] 1. COBOLファイルアクセスルーチンの入出力対象となるファイルが索引ファイルである。かつ、 2. 1.の索引キーがUTF-32リトルエンディアンの日本語項目である。かつ、 3. ファイルをオープンするAPI関数(*1)に対し、レコードキーリストにNULLポインタを指定(*2)している。かつ、 4. ファイルをオープンするAPI関数を実行した場合。 (*1):対象となるAPI関数は以下のとおりです。 ・ cobfa_open ・ cobfa_openW (*2):本指定により、既存のファイルの索引構成とレコード形式、レコード長を認識してファイルをオープンします。
12	V10.1.0 ～ V11.0.0A	PH06622	以下の条件のとき、COBOLプログラム実行時にFORMAT句なし印刷ファイルのREDEFINES句を指定した項目を含む集団項目の出力で、CHARACTER TYPE句またはPRINTING POSITION句が有効にならず、指定した印字属性または印字位置が正しく出力されません。 UNICODEアプリケーションの場合、上記現象に加えて、以下の現象が発生する場合があります。 ・ 実行時メッセージ － 実行時メッセージ「JMP0320I 'CNVER=xx」が出力される ・ 日本語項目の文字化け － 日本語項目に格納したデータの印字結果が文字化けする [条件] 1. FORMAT句なし印刷ファイルを使用している。かつ、 2. 帳票出力に連携製品を使用せずにプリンタに直接出力している。かつ、 3. WRITE文に指定したレコード項目またはWRITE文のFROM句に指定したデータ項目がREDEFINES句を指定したデータ項目を従属する集団項目である。かつ、 4. 3.のREDEFINES句を指定した集団項目に次のいずれかを記述している。かつ、 － 従属する集団項目がある。

項番	V/L(注)	P番号	現象
			— 従属する日本語項目がある。 — 従属するデータ項目に有効となるCHARACTER TYPE句を指定している。(*1) — 従属するデータ項目に有効となるPRINTING POSITION句を指定している。(*1) 5. 3.のREDEFINES句を指定した集団項目以降の3.と同じレベル番号に次のいずれかを記述している場合。 — CHARACTER TYPE句を指定した基本項目または集団項目がある。 — PRINTING POSITION句指定した基本項目または集団項目がある。 — 従属するデータ項目に有効となるCHARACTER TYPE句を指定している集団項目がある。 — 従属するデータ項目にPRINTING POSITION句を指定している集団項目がある。 (*1): 次のいずれかの項目にREDEFINES句を指定した場合、翻訳時にJMN2224I-Wが出力され、項目に指定したCHARACTER TYPE句またはPRINTING POSITION句が無効であることを警告されます。 • CHARACTER TYPE句指定またはPRINTING POSITION句を記述したデータ項目 • CHARACTER TYPE句またはPRINTING POSITION句が有効になるデータ項目を従属する集団項目 [現象が発生するプログラム例] <pre> DATA DIVISION. WORKING-STORAGE SECTION. 01 DATA1. 03 DATA2. 05 DATA31. 07 DATA31A PIC X(10). 05 DATA32 REDEFINES DATA31. 07 DATA32A. *>発生条件4 09 DATA32A1 PIC X(5). 09 DATA32A2 PIC X(5). 05 DATA33. *>発生条件5 07 DATA33A PIC N(5) MODE-1. PROCEDURE DIVISION. WRITE PRINT-REC FROM DATA1 AFTER PAGE. *>発生条件3 </pre>

注: V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.3 MeFt

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition クライアント運用パッケージ

表3.3 MeFtのプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.1.0 (V10.1.0) ～ V10.1.0B (V10.5.0)	PG95041	以下の[条件1]または[条件2]の時、プリンタ装置への出力またはプレビューが失敗します(通知コード:44)。また、プリンタの種別によっては正常終了するが、画像が出力されません。 [条件1] 1. 組込みメディア項目を定義した帳票定義体を利用する。かつ、 2. メディア出力時に使用する解像度(※)が1440より小さい。かつ、 3. $1440 \div \text{解像度}$が整数とならない(例:300dpiなど)。かつ、 4. 画像の縦横サイズのいずれかが1ピクセルの場合。 または、 [条件2] 1. 組込みメディア項目を定義した帳票定義体を利用する。かつ、 2. メディア出力時に使用する解像度(※)が1440より大きい。かつ、 3. 画像の縦横サイズのいずれかが、$\text{解像度} \div 1440$で算出される値以下の場合。 ※:「メディア出力時に使用する解像度」は以下のいずれかです。 ・ プリンタ解像度 ・ ディスプレイ解像度 ・ 画像データの解像度 どの解像度を採用するかは、組込みメディア項目のプロパティ「メディアデータの解像度で出力」の指定、およびプリンタ情報ファイルのキーワード「MEDIAMODE」の指定によります。
2	V10.1.0 (V10.1.0) ～ V10.1.0B (V10.5.0)	PG95043	以下の条件の時、99999ページまで印刷可能であるにもかかわらず、1000ページ以降のページが印刷されません。 1. 以下のいずれかを指定し、印刷ダイアログボックスを表示する。かつ、 a. 環境変数「MEFTDLG」に「Y」を指定する。または、 b. プリンタ情報ファイルのキーワード「SETPRTDIALOG」に「2」または「3」を指定する。 2. 印刷ダイアログボックスで[ページ範囲]の[ページ指定]に、1000ページ以降を指定した場合。
3	V11.0.0 (V11.0.0)	PH02808	以下の条件の場合、MeFtの画面で文字入力したとき、入力中の文字がMeFtの画面から消えることがあります。 1. ウィンドウ情報ファイルのキーワード「CARET」に「N」「T」「S」または「R」のいずれかを指定する。かつ、 2. 日本語入力システムにJapanist、またはCharset-入力アシストを使用する。かつ、 3. 文字入力を行い、日本語入力システムの入力予測候補リストを表示する。かつ、 4. 入力予測候補リストが表示された状態で文字入力を行う。

注:V/Lは障害が存在する範囲を示します。()内のバージョンはNetCOBOLシリーズのバージョンレベルを示します。

3.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ

3.4.1 TF-MDPORT

プログラム修正の情報はありません。

3.4.2 TF-LINDA

表3.4 TF-LINDAのプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V70L10 (V10.3.0 ～ V10.5.0)	PG96953	以下の条件の場合、対象ファイルのデータを破壊する場合があります。 1. 順編成ファイル、または行順編成ファイルを入力対象にしている。かつ、 2. 「データ条件」指定で対象データを抽出している。かつ、 3. 抽出した対象データを更新(更新、削除)している。
2	V70L10 (V10.3.0) ～ V70L10A (V11.0.0)	PH03105	以下の条件の場合、当該レコードが更新されず、別レコードを更新(または削除)する場合があります。 1. 索引編成ファイルを入力対象にしている。かつ、 2. 主キーに重複が許可されている。かつ、 3. 実データ内に主キーが複数種類存在する。かつ、 4. データファイルの編集モードで「更新」を選択している。かつ、 5. 「レコード削除」又は「レコード更新」を行う。かつ、 6. 「保存して閉じる」を選択する。 [操作例] 1)主キーに重複が許可された索引編成ファイルを、編集モード「更新」で開きます。 +-----+-----+-----+-----+ 内部番号 ステータス 主キー データ +-----+-----+-----+-----+ 1 A あ 2 A い 3 A う 1 B か 2 B き 3 B く +-----+-----+-----+-----+ 2)4レコード目を削除します。 +-----+-----+-----+-----+ 内部番号 ステータス 主キー データ +-----+-----+-----+-----+ 1 A あ 2 A い 3 A う 1 削 除 B か 2 B き 3 B く +-----+-----+-----+-----+

項番	V/L(注)	P番号	現象
			3)データ保存後に再度開き直すと、1レコード目が削除され、削除したはずの4レコード目が残ります。 <pre> +-----+-----+-----+-----+ 内部番号 ステータス 主キー データ +-----+-----+-----+-----+ 1 A あ ←実際に削除されるレコード 2 A い 3 A う 1 B か ←本来削除されるべきレコード 2 B き 3 B く +-----+-----+-----+-----+ </pre>

注:V/Lは障害が存在する範囲を示します。()内のバージョンはNetCOBOLシリーズのバージョンレベルを示します。

3.4.3 MF-STEP COUNTER

プログラム修正の情報はありません。

3.4.4 TF-EXCOUNTER

プログラム修正の情報はありません。

3.5 PowerSORT Server

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ

表3.5 PowerSORTのプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V5.0L10 ～ V7.0.0	PH05442	以下の条件の場合、PowerSORTの実行で、レコード内に再編成フィールドまたは選択フィールドが存在するかどうかのチェックが正しく行われないことがあります。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. レコード形式が以下のいずれかである。かつ、 3. バイナリファイル可変長レコード形式(-recordオプションのrecformオペランドが"var") 4. テキストファイル固定フィールド指定のレコード形式(-recordオプションのrecformオペランドが"txtfix") 5. 2つ以上の出力ファイル情報オプション(-output)を指定している。かつ、 6. 2つ以上の出力ファイル情報オプション(-output)で以下のいずれかの機能を指定している。かつ、 7. レコード再編成機能(reconstオペランド) 8. レコード選択機能(include/omit/caseオペランド) 9. レコード再編成機能の場合、再編成フィールドとしてレコード内のフィールドを指定している("pos.len"の形式または"pos.END"の形式)。かつ、

項番	V/L(注)	P番号	現象
			10. それぞれの出力ファイル情報オプション(-output)で指定した再編成フィールドの最大位置(「変位+長さ-1」の最大値)または選択フィールドの最大位置(「変位+長さ-1」の最大値)が異なる。

注: V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.6 Jアダプタクラスジェネレータ

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

表3.6 Jアダプタクラスジェネレータのプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.1.0 ～ V11.0.0	PH02733	以下の条件の場合、Jアダプタのジェネレータコマンド(java2cob)が生成するCOBOLソースのクラス名またはインタフェース名の最後の文字がハイフン(-)となり、COBOLプログラムの翻訳時に、以下の翻訳エラーが発生することがあります。 JMN1123I-S 許されない語'-' が現れました。次の認識できる句、段落、節または部まで無効になります。 • アダプタクラスを生成するJavaのクラス名からパッケージ名を除いた名前の28文字目がピリオド(.)またはドル(\$)になる場合。 • アダプタクラスを生成するJavaのインタフェース名からパッケージ名を除いた名前の28文字目がピリオド(.)またはドル(\$)になる場合。
2	V10.3.0 (V10.3.0) ～ V10.3.0 (V10.5.0A)	PG94539	以下の条件の場合、java2cobコマンドが以下の診断メッセージを出力して、COBOLソースを生成することができません。 Java VMの起動に失敗しました。JDKの環境定義 (PATH, CLASSPATH)、JDKのインストールが正しく行われていることを確認してください。 1. Windows(x64)版のNetCOBOL開発パッケージのJアダプタクラスジェネレータをインストールしている。かつ、 2. Windows(x64)版の富士通製JDKがインストールされていない。かつ、 3. Windows(x64)版のOracle製JDKがインストールされている。かつ、 4. java2cobコマンドを実行した場合。

注: V/Lは障害が存在する範囲を示します。()内のバージョンはNetCOBOLシリーズのバージョンレベルを示します。

3.7 FORM

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.8 MeFt/Web

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition 開発パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition サーバ運用パッケージ
- NetCOBOL Standard Edition サーバ運用パッケージ

表3.7 MeFt/Webのプログラム修正一覧

項番	V/L(注)	P番号	現象
1	V10.3.0 (V10.3.0) ～ V11.0.0A (V11.0.0A)	PH04523	以下の条件の場合、画面機能で指定したフォントが存在しないとき、アプリケーションエラー(例外コード:c0000005)が発生することがあります。 1. ウィンドウ情報ファイルのキーワード「WDFONTNAME」に存在しないフォント名を指定する。かつ、 2. MeFtの画面を表示する。
2	V10.3.0 (V10.3.0) ～ V10.5.0 (V10.5.0A)	PG94487	以下の条件のとき、MeFtの画面を閉じると、アプリケーションエラー(例外コード:0xc0000374)が発生する場合があります。 1. MeFt/Webを利用している。かつ、 2. ウィンドウ情報ファイルに「EDTSPACE Y」を指定する。かつ、 3. 数字項目(右詰め)に数字を入力する。かつ、 4. 利用者プログラムで日本語項目のレコードにNULLデータを設定して、この項目を含む出力項目の項目群に対して出力処理(WRITE命令)を行う。かつ、 5. 利用者プログラムで3.の項目群に対して入力処理(READ命令)を行う。かつ、 6. アテンションキーを入力する。かつ、 7. MeFtの画面を閉じる(表示ファイルのクローズ処理を行う)
3	V10.5.0 (V10.5.0) ～ V10.5.0 (V10.5.0A) 、 V11.0.0 (V11.0.0)	PH02836	以下の条件の場合、MeFtの画面で文字入力したとき、入力中の文字がMeFtの画面から消えることがあります。 1. ウィンドウ情報ファイルのキーワード「CARET」に「N」「T」「S」または「R」のいずれかを指定する。かつ、 2. 日本語入力システムにJapanist、またはCharset-入力アシストを使用する。かつ、 3. 文字入力を行い、日本語入力システムの入力予測候補リストを表示する。かつ、 4. 入力予測候補リストが表示された状態で文字入力を行う。

注: V/Lは障害が存在する範囲を示します。()内のバージョンはNetCOBOLシリーズのバージョンレベルを示します。

付録A NetCOBOLシリーズの製品体系

NetCOBOLシリーズバージョン・レベルとNetCOBOLシリーズに含まれるコンポーネントのバージョン・レベルの対応表を以下に示します。

表A.1 NetCOBOLシリーズのバージョン・レベルとコンポーネントのバージョン・レベル対応表

NetCOBOL シリーズのV/L	NetCOBOLシリーズに含まれるコンポーネント のV/L	Enterprise Edition 開発パッケージ	Standard Edition 開発パッケージ	Base Edition 開発パッケージ	Enterprise Edition サーボ運用パッケージ	Standard Edition サーボ運用パッケージ	Base Edition サーボ運用パッケージ	クライアント運用パッケージ Standard Edition	クライアント運用パッケージ Base Edition
V11.0.1	NetCOBOL V11.0.1	○	○	○	○	○	○	○	○
	MeFt V11.0.0A	○	○		○	○		○	
	MeFt/Web V11.0.1	○	○		○	○			
	FORM V11.0.0	○	○						
	Jアダプタクラスジェネレータ V11.0.1	○	○		○	○			
	PowerSORT Server (64bit) V7.0.1	○			○				
	SIMPLIA/TF-MDPORT V80L20 SIMPLIA/TF-LINDA V70L10B SIMPLIA/MF-STEP COUNTER V60L10 SIMPLIA/TF-EXCOUNTER V70L10	○							
V11.0.0A	NetCOBOL V11.0.0A	○	○	○	○	○	○	○	○
	MeFt V11.0.0A	○	○		○	○		○	
	MeFt/Web V11.0.0A	○	○		○	○			
	FORM V11.0.0	○	○						
	Jアダプタクラスジェネレータ V11.0.0	○	○		○	○			
	PowerSORT Server (64bit) V7.0.0	○			○				
	SIMPLIA/TF-MDPORT V80L20 SIMPLIA/TF-LINDA V70L10B SIMPLIA/MF-STEP COUNTER V60L10 SIMPLIA/TF-EXCOUNTER V70L10	○							
V10.5.0B	NetCOBOL V10.5.0B	○	○	○	○	○	○	—	—
	MeFt V10.1.0B	○	○		○	○			
	MeFt/Web V10.5.0A	○	○		○	○			
	FORM V10.0.0C	○	○						
	Jアダプタクラスジェネレータ V10.3.0A	○	○		○	○			
	PowerSORT V6.1.0	○			○				
	SIMPLIA/TF-MDPORT V80L10 SIMPLIA/TF-LINDA V70L10B	○							

NetCOBOL シリーズのV/L	NetCOBOLシリーズに含まれるコンポーネント のV/L	Enterprise Edition 開発パッケージ	Standard Edition 開発パッケージ	Base Edition 開発パッケージ	Enterprise Edition サーボ運用パッケージ	Standard Edition サーボ運用パッケージ	Base Edition サーボ運用パッケージ	Standard Edition クライアント運用パッケージ	Base Edition クライアント運用パッケージ
V10.3.0	NetCOBOL V10.3.0	○	○	○	○	○	○	—	—
	MeFt V10.1.0B	○	○		○	○			
	MeFt/Web V10.3.0	○	○		○	○			
	FORM V10.0.0B	○	○						
	Jアダプタクラスジェネレータ V10.3.0	○	○		○	○			
	PowerSORT V6.0.0A	○			○				
	SIMPLIA/TF-MDPORT V80L10	○							
	SIMPLIA/TF-LINDA V70L10								
V10.2.0	NetCOBOL V10.2.0	○	—	—	○	—	—	—	—
	MeFt V10.1.0A	○			○				
	FORM V10.0.0A	○							
	Jアダプタクラスジェネレータ V10.0.0	○			○				
	PowerSORT V6.0.0A	○			○				
	SIMPLIA/TF-MDPORT V70L20	○							
	SIMPLIA/TF-LINDA V60L41								
V10.1.0	NetCOBOL V10.1.0	○	—	—	○	—	—	—	—
	MeFt V10.1.0	○			○				
	PowerSORT V6.0.0	○			○				
	SIMPLIA/TF-MDPORT V70L20	○							
	SIMPLIA/TF-LINDA V60L41								

○ :製品に含まれるコンポーネント

空白:製品に含まれないコンポーネント

— :当該バージョン・レベルのNetCOBOLシリーズでは提供していないEdition製品